

庶務課
會計課
第三十條 教務廳ニ左ノ職員ヲ置ク

理事 一名
課長 三名
課員 若干名

第三十一條 理事ハ教師中教務ニ練達ノ者ヲ選任シテ之ニ充ツ

但顧問中ヨリ一人選任シ之ヲ兼ネシムルコトアルヘシ

第三十二條 理事ハ管長ヲ補佐シ其命ヲ受ケテ教務ヲ處理シ監督以下ノ職員ヲ監督ス

第三十三條

課長及課員ハ教師ト否トヲ問ハス其任ニ適スル者ヲ以テ之ニ任ス

第三十四條 課長ハ管長ノ命ヲ受ケ理事ニ真議シテ主任ノ課務ヲ提掌ス

第三十五條 課員ハ主任課長ノ命ヲ受ケ其課務ニ從事ス

第六章 教師

第三十六條 教師ノ名稱及等級左ノ如シ
大 教 正 一 級

權大教正	二級
中教正	三級
權中教正	四級
少教正	五級
權少教正	六級
大講義	七級
權大講義	八級
中講義	九級
權中講義	十級
少講義	十一級
權少講義	十二級
訓導	十三級
權訓導	十四級
教導職試補	十五級
第三十七條 教師ハ教師檢定條規ニ依リ管長之ヲ命ス	
第三十八條 教師ハ三條ノ教憲ヲ奉シ <small>(第九條第四十條ニ依リ)</small> 本教ノ教旨ヲ體シ左ノ事項ニ從	

事ス

- 一 衆庶ニ對シ布教傳道ス
- 二 信徒ヲ募リ教會講社ヲ結集ス
- 三 神祭及婚姻葬儀等ノ禮典ヲ執行ス

第三十九條 本教々師ニシテ他教ノ教師ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第四十條 教師ハ管長ノ允可ヲ經テ衆庶ノ請求ニ應シ常ニ神占禁厭祈禱ニ從事スルコトヲ得

神占禁厭祈禱ニ關スル規則ハ教令ヲ以テ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第四十一條 教師ニシテ教書ヲ編纂シ本教々師ノ資格又ハ教會講社ノ名義ヲ用キテ刊行シ若クハ教會講社ニ於テ之ヲ使用セシメントスルトキハ豫メ管長ノ檢閲ヲ經ヘシ

第七章 特待員

第四十二條 信徒中歸向最モ篤ク德行著シキ者又ハ修道眞法ヲ修行シタル者ニハ左ノ名稱ヲ授與シ特ニ待遇スルヲアルヘシ

一 修 教 自壹級 至十五級

第四十三條 前條特待員ハ管長之ヲ特選シ或ハ教會講社長ノ選舉ニ依リ之ヲ命ス

第八章 教 區

第四十四條 全國ヲ分チテ左ノ十一教區ヲ置ク

第一 東京府一圓

第二 神奈川、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木ノ六縣

第三 宮城、福島、岩手、青森、山形、秋田ノ六縣

第四 愛知、静岡、山梨、滋賀、岐阜、長野ノ六縣

第五 京都、大坂、兵庫、奈良、三重、和歌山ノ二府四縣

第六 鳥取、嶋根、岡山、廣島、山口ノ五縣

第七 新潟、福井、石川、富山ノ四縣

第八 徳島、香川、愛媛、高知ノ四縣

第九 長崎、福岡、大分、佐賀ノ四縣

第十 熊本、宮崎、鹿児島、沖縄ノ四縣

第十一 北海道一圓

第九章 布 教

第四十五條 布教ハ左ノ三條ノ教憲ヲ奉シ本教ノ教旨ヲ傳道スルヲ目的トス

第一條 敬神愛國ノ旨ヲ體スヘキ事

第二條 天理人道ヲ明ニスヘキ事
 第三條 皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セシムヘキ事
 第四十六條 教師ニアラサレハ布教ヲ爲スヲ得ス
 第四十七條 布教ノ方法ヲ分チテ左ノ三種トス
 一 管長巡教
 二 布教使派遣
 三 説教々話
 第四十八條 管長ハ時宜ニ依リ若クハ教會講社又ハ教師信徒ノ請願ニ依リ巡教ヲ爲スコトアルヘシ
 第四十九條 布教使ハ管長ノ命ニ依リ定時又ハ臨時ニ全國又ハ一地方ニ派出スルモノトス
 第五十條 教會講社又ハ教師信徒ニ於テ布教使ノ派出ヲ請願セントスルトキハ必ス監督ヲ經由シテ教務廳ニ申出ツヘシ
 外國布教ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム
 第五十一條 説教話ハ教會講社説教所等ニ於テ之ヲ舉行スヘシト雖トモ地方ノ狀況ト信徒ノ請求ニ依リ假ニ民家ニ於テ執行スルコトアルヘシ

但民家ニ於テハ月次説教日ヲ定ムルヲ得ス

第十章 教會講社

第五十二條 教會講社ノ規則ハ教令ヲ以テ別ニ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
 第五十三條 教會説教所等ヲ新設セントスルトキハ管長ノ添書ヲ得テ地方廳へ出願シ其移轉廢合ヲ爲サントスルトキハ管長ノ添書ヲ得テ地方廳へ届出ツヘシ
 第五十四條 教會講社ニ於テハ常ニ職員教師信徒ノ名簿ヲ備ヘ其増減表ヲ調製シテ毎年六月十二月教務廳ニ差出スヘシ
 第十一章 會議
 第五十五條 會議ハ教義ヲ諮問スル爲ニ教ヲ開キ各教區ノ監督及在京四級以上ノ教師ヲ以テ議員トス
 第五十六條 會議ハ管長ニ於テ諮問ノ必要アリト認ル場合ニ於テ之ヲ開ク但少クトモ三年毎ニ一回ハ之ヲ開クモノトス
 第十二章 會計
 第五十七條 本教ノ經費ハ教師及教會講社ヨリ徵集スル教費金其他臨時收入ヲ以テ之ニ充ツ
 第五十八條 教師及教會講社ニ係ル教費金ハ現行方法ニ依リ之ヲ賦課徵收ス其方法

ヲ變更セントスルトキハ會議ノ諮問ヲ經ヘシ

第五十九條 歳入歳出ノ決算ハ顧問ノ検査確定ヲ經テ教會長講社長ニ報告スヘシ

第六十條 本教所有ノ地所建物其他財産ハ總テ管長之ヲ管理ス

第六十一條 本教所有ノ財産ハ財産目録ヲ調製シ其種類購入價額又ハ評價額並出納ノ期日及事由ヲ記入スヘシ

第六十二條 本教一切ノ收支ハ之ヲ會計簿ニ明記スヘシ
會計簿ニ關スル様式ハ別ニ定ム

第十三章 賞譽例

第六十三條 本教部内ニ於テ特ニ有功又ハ篤志ノ者アルトキハ左ノ三種ヲ以テ賞譽ヲ行フモノトス

- 一 表功牌
- 二 賞品
- 三 賞狀

第十四章 懲戒例

第六十四條 本教々師ニシテ懲戒スヘキ者ハ本例ニ依テ處分シ内務大臣へ届出ツルモノトス

第六十五條 懲戒ノ種目左ノ如シ

- 一 免職
- 二 降級
- 三 譴戒
- 四 謹慎

第六十六條 免職ハ教師ノ分限ヲ視奪ス

第六十七條 降級ハ其情狀ニ依リ二級以内ニ於テ教師ノ等級ヲ降ス

第六十八條 譴戒ハ其理由ヲ示シ譴戒書ヲ附シテ將來ヲ戒シム

第六十九條 謹慎ハ降級譴戒ニ處セラレタル者ニ對シ其情狀ニ依リ三日以上十五日以内管長指定ノ場所ニ於テ解除ヲ修セシム

第七十條 左項ノ一ニ當ルモノハ其情狀ニ依リ免職又ハ降級トス

- 一 管長ノ命令ヲ奉セサル者
- 二 本教ノ教規教令ニ違背シタル者
- 三 本教ノ名稱ヲ藉テ詐術其他不正ノ所業ヲ爲ス者
- 四 家資分散ノ處分ヲ受ケタル者
- 五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

- 六 不品行又ハ不徳義ヲ以テ教師ノ体面ヲ汚ス者
 - 七 公然政事ニ關スル談論演舌ヲナシ又ハ其著書ヲナセシ者
 - 八 教務廳教會講社ノ職員ニシテ部下ノ教費金ヲ濫用シ若クハ專斷ヲ以テ貸借セシ者
 - 九 本教々費金納期四度ヲ怠ル者
 - 十 本教ノ教旨ニ違背シタル演説々教ヲ爲シ又ハ文書著書ヲ公ニシタル者
 - 十一 教派ノ分合若クハ轉教ヲ強願シ又ハ誘説シ本教ノ協和ヲ害スル所爲アル者
 - 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ニ託シ衆庶ヲ惑ス者
 - 十三 流言浮説ヲ造テ人心ヲ蠱惑シ又ハ風俗ヲ紊ル者
 - 十四 體戒ノ處分ヲ受クルコト三度ニ及フ者
 - 十五 管長ノ允可ヲ得スシテ教會講社ノ規約及之ニ類スル規則ヲ造リ部内ニ施行スル者
 - 十六 違書ヲ受ケテ故意ニ日時ヲ稽緩差失シ事ニ害アル者
 - 十七 管長ノ允可ヲ得スシテ常ニ衆庶ノ請求ニ應シ神占禁厭祈禱ヲ爲シ神符供物ト稱シ配賦スル者
- 但請求ニ應シ神符送附ノ取扱ヲ爲スハ此限ニアラス

- 十八 名ヲ教會講社說教所等ノ設立移轉又ハ廢合等ニ託シ妄ニ勸財ヲ爲シタル者
 - 第七十一條 左項ノ一ニ當ル者ハ體戒トス
 - 一 本教職員教會長講社長ノ命令ニ從ハザル者
 - 二 說教演説集會等ニ於テ自讃毀他ノ甚シキ者
 - 三 禮式ニ違フ者
 - 四 本教々費金ヲ怠納スル者
 - 五 教會講社ノ規約ニ違背シタル所爲アル者
 - 六 本教ニ對シ約束上ヨリ成立タル納金ヲ怠ル者
 - 七 教會講社說教所ヲ貸與シテ政談演説歌舞演劇等ヲ爲サシムル者
 - 七十二條 免職ノ者ニシテ情狀憫諒スヘク且改悛ノ實アルトキハ滿五年經過ノ後特ニ原級ヨリ一級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得
 - 七十三條 降級ノ者ハ滿三年經過ノ後改悛ノ實蹟ヲ認ムルニアラサレハ昇級試験ヲ受クルコトヲ許サス
 - 七十四條 懲戒スヘキ者ハ監督又ハ教會長講社長ヨリ其行跡ノ審査ヲ遂ケ證據書類ニ意見書ヲ付シ管長ニ申請スルモノトス
- 但管長ハ場合ニ依リ直ニ懲戒ニ處スルコトアルヘシ

第七十五條 懲戒ニ依ラス疾病其他ノ事故ヲ以テ免職スヘキ者ハ管長ヨリ旨ヲ諭シ
辭職願ヲ出サシム其旨ニ遵ハサル者ハ管長之ヲ處分ス

第十五章 附 則

第七十六條 本教規ヲ改正シ若クハ修正セントスルトキハ管長ハ會議ノ諮問ヲ經内
務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第七十七條 従前ノ教規教令其他ノ規則ニシテ本教規ニ牴觸スル者ハ總テ廢止ス

大成教教師檢定條規

本年五月三十日御訓令ニ依リ別冊之通り教師檢定條規相定度候間御認可被成下度此
段奉願候也

明治二十八年九月廿八日

大成教事務取扱

大教正 村越 鐵善 印

同

大教正 東宮 千別 印

内務大臣子爵野村 靖殿

書面願之趣認可ス

割 印

明治廿八年十二月廿四日

内務大臣子爵野村 靖 印

大成教教師檢定條規

大成教々師檢定條規

第一章 檢定

- 第一條 本教々規ニ掲グル所ノ教師ノ分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格シタル者ニアラザレバ之ヲ授與セス
- 第二條 左項ノ一ニ該當スル者ハ教師タルコトヲ得ス
 - 一 瘋癲白痴ノ者
 - 二 年齢二十歳以下ノ者
 - 三 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
 - 四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者及復權ヲ得テ一箇年ヲ經過セサル者
 - 又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及辨償ヲ終ヘテ一箇年ヲ經過セサル者
- 五 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケ改心ノ實ヲ表セサル者及改心ノ實ヲ表シ二箇年ヲ經過セサル者
- 第三條 檢定ヲ分テ左ノ二トス

業作	筆行爲	鎮魂式	神祭諸式	修眞法	同	同上	婚葬禮式	神祭式	同上	同上	同上	同上	學科	種級
													講口述	義筆記
													種一(三級)	種二(五級)
													種三(七級)	種四(九級)
													種五(十一級)	種六(十三級)
													種七(十五級)	種八(十七級)

第一級 六國史
 第二級 日本集
 第三級 古事記
 第四級 日本紀
 第五級 古事記上
 第六級 古語拾遺
 第七級 同上
 第八級 同上
 第九級 同上
 第十級 同上
 第十一級 同上
 第十二級 同上
 第十三級 同上
 第十四級 同上
 第十五級 同上

第四條 試驗ハ三級以下ヲ七種ニ分チ學業ノ試驗ヲ行フ者トス
 但試補ヲ七種トシ他正權ヲ一種中ニ包含セシム
 第五條 學業ノ試驗ヲ分ツコト左ノ如シ
 一 教義學科試驗
 二 普通學科試驗
 第六條 教義學科試驗科目左ノ如シ

說 教 神道大意 同 上 教立大意 同 上 同 上 同 上 同 上

百九十八

第七條 普通學科試験科目左ノ如シ

但此科目ニ合格シタル者ハ再度之ニ就キ試験スルコトナシ

- 一 修身口
- 一 人身生理述
- 一 漢文譯
- 一 日本歴史記
- 一 日本地理記
- 一 算術答筆
- 一 習字

第八條 教義學科試験ハ二種以上ヲ高等トシ三種以下ヲ尋常トス

第九條 試験問題ハ各科目ニ就一問題ト定メ各科百點ヲ滿點トシ平均六十點ヲ及第トシ八十點以上ヲ甲トシ七十九點以下ヲ乙トシ甲ヲ正ニ配シ乙ヲ權ニ配ス

一科若シ四十點未滿ナレハ落第トス

第十條 新補試験ハ十三級以下トス

但高等官ト成ルヲ得ルモノハ六級以下判任官ト成ルヲ得ルモノハ十級以下ノ試験ヲ受ルコトヲ得

第十一條 昇級試験ハ二箇年以上現職ニ在ル者ノ外受験ヲ許サス

第十二條 昇級試験ハ越級ヲ許サス特ニ檢定委員ノ詮衡ヲ經テ試験ニ應スルヲ許スコトアルモノ十二級八級六級ハ超越ヲ許サス

第十三條 正權大教正ハ試験ヲ要セス

但大教正七名權大教正十三名ニ超過スルヲ許サス

第十四條 認定ハ左項ノ一ニ該當スル者ニ限り教義學科普通學科ノ内試験ノ一部ヲ免除シ甲部ハ七級ニ乙部ハ八級以下ニ丙部ハ十三級以下ノ教師ニ補命スルコトヲ得

甲 部

一 項 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニ在リシ者

二 項 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正タル者

以上教義學科試験ノ一部ヲ免除ス

乙 部

一 項 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者

以上普通學科試験ヲ免除ス

丙 部

一 項 神宮々掌以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者

二 項 神宮皇學館專科卒業者及皇典講究所五等司業以上ノ者

三 項 滿十年以上府縣社以下ノ神職ニ在リシ者

百九十九

四項 教義ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル成績アル者

五項 十年以上本管ノ教徒ニシテ布教ニ熱心シ顯著ナル功績アル者
以上教義學科試験ノ一部ヲ免除ス

六項 尋常師範學校尋常中學校以上公立學校ヲ卒業セシ者

七項 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者
以上普通學科試験ヲ免除ス

第十五條 教師ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ一級ヲ進ムルコトヲ得

一 現級滿三年以上勤務シ其功績顯著ナル教務廳課長及各教會長以上ノ者

二 教義ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタル者

三 現級滿三年以上勤務シ其功績顯著ナル者

第十六條 本教々師タリシ者ニシテ再ヒ本教ニ復職セント欲スル者又ハ神道他教派ノ教師タリシ者ニシテ本教ヘ附屬セント欲スル者明治十七年八月十一日以前教導職タリシ者ハ教義學ノ一部及普通學ノ全部ヲ免除シ原級以下ニ補スルコトヲ得

第二章 試驗

第十七條 試驗ハ教務廳ニ於テ隨時之ヲ行フ

第十八條 試驗ハ檢定委員總長及檢定委員之ヲ審案シ其成績ヲ管長ニ申告ス

第十九條 地方ニ於テ試験ノ必要アルトキハ檢定委員總長及檢定委員ヨリ申請シ特ニ管長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條 地方ニ於テ執行スル試験ハ檢定委員長及檢定委員其口述及講讀行爲ニ關スルモノヲ審案シ其成績ヲ檢定委員總長ニ報告シ其筆答筆記ニ關スルモノハ之ヲ取纏メ直ニ檢定委員總長ニ送附スルモノトス

第二十一條 前條ノ場合ニ於テ檢定委員總長ハ檢定委員ト共ニ筆答筆記ヲ審案シ其成績ヲ地方檢定委員長ヨリ報告シタル成績ト通算シ其成績ヲ管長ニ申告スルモノトス

第二十二條 試験問題ハ檢定委員總長之ヲ定ム

第二十三條 試験ハ檢定委員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ之ヲ施行セス

第二十四條 檢定試験ニ關スル一切ノ書類ハ教務廳ニ保存スルモノトス

第三章 檢定委員

第二十五條 教務廳ニ檢定委員總長一名檢定委員五名ヲ置ク

第二十六條 地方ニ於テ試験場ヲ設クルトキハ一箇所毎ニ檢定委員長一名檢定委員二名以上五名以内ヲ置ク

第二十七條 檢定委員總長ハ三級以上ノ教師委員長及委員ハ六級以上ノ教師及學術

専門ノ者ニ就キ管長ノ特選ヲ以テ之ヲ命ス

第二十八條 檢定委員總長及檢定委員長ハ管長ノ監督ヲ受ケ檢定ニ關スル事務ヲ處理シ及疑義ヲ判決ス

第二十九條 檢定委員總長ハ六級以上教師ノ試験ト教務廳内ノ試験及地方ニ於テ施行シタル筆答筆記ニ關スル試験及教師ノ認定ヲ爲シ檢定委員長ハ其地方ノ筆答筆記ニ關スルモノヲ除クノ外七級以下教師ノ試験及認定ヲ爲ス

第三十條 地方ニ於テ六級以上教師ノ試験ヲ行フノ必要アルトキハ管長ハ檢定委員總長ヲ其地方ニ派遣シ檢定試験ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第四章 立會人

第三十一條 檢定委員試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監査スルカ爲ニ管長ハ八級以上ノ教師ヲ立會人ニ定ム

第三十二條 立會人ハ試験ニ臨監シ試験終了シタルトキハ直ニ試験ノ實況ヲ管長ニ報告スルモノトス

第五章 懲戒

第三十三條 檢定委員立會人教務廳職員其他教師ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩シ若クハ密示シタルモノハ其情狀ニ依リ職員及教師ニアリテハ免職若クハ降級ニ處

シ受験者ニアリテハ其試験ヲ無効トシ終身受験セシメサルモノトス

第三十四條 檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ實況ニ付虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

第六章 附則

第三十五條 教規其他ノ規則ニ依リ従前教師ノ分限及等級ヲ授與セラレタルモノハ引續キ其職ニ在ルコトヲ得

第三十六條 従前ノ教規及規則ニシテ此條規ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

神習教々規

明治十七年八月太政官第十九號御布達ニ基キ別冊之通教規並附錄教約撰定仕永遠當
教之通規例格ト相定メ度候條至急御認可相成度此段上申仕候也
明治十八年十二月廿五日

神習教管長 芳村 正 秉 印

內務大臣伯爵 山縣 有朋 殿

(指令朱書)

印 割

書面之趣認可候事

明治十九年二月二日

內務大臣伯爵 山縣 有朋 印

神習教々規

○教規緒言三則

一 謹テ按スルニ我が

皇朝惟神ノ道不言ノ教其ノ之ヲ傳ルル尙矣抑モ斯道ハ我が

天神中主神ノ造化ニ始リ高皇產靈神神皇產靈神ノ氣化ニ行レ伊弉諾尊伊弉册尊ノ

体化ニ成リ

天照大御神之ヲ

皇孫尊ニ傳ワ即チ

歷朝ノ儀典ニシテ而シテ之ヲ我方大中臣家ニ傳ヘ奉事セシム(饒速日命大國主命少彥名命ノ遺傳モ亦這中ニ存在シテ遺漏有ルヲナシ)今ヤ教内ノ事之ヲ管長ニ委任セラル(明治十七年八月太政官第十九號ノ御布達ヲ以テ教導職ヲ廢止セラレ之ヲ管長ニ委任セラル)即チ之ヲ本源トシ之ヲ神習シ而シテ

天皇ノ法令ヲ遵守シ將ニ斯道教ヲ天下ニ宣揚セムトス即チ之ヲ宣布スルニ當テ其施行ノ教規ヲ立テ以テ之ヲ類別ス

一 其施行ノ教規タル教内ニ神事局。宣教局。祝部局。辨事局。ノ四局ヲ置キ其局内一般

ノ務ニ執掌ス

一 神事ハ道教ノ由テ生ル處ナリ故ニ首ニ此局ヲ置キ大凡神事ニ關スル一般ノ事項ヲ蒐規ス

○ 宣教ハ道教實施ノ急務ナリ次ニ此局ヲ置キ總テ布教ニ關スル全体ノ事項ヲ集規ス○ 祝部ハ人ノ大故ナル葬儀ヲ行フ要務ナリ次ニ此局ヲ置キ葬事ニ關スル總体ノ事項ヲ蒐規ス○ 辨事ハ道教實施上教内萬般ノ事務有リ次ニ此局ヲ置キ其事務ニ關スル一切ノ事項ヲ採規ス以上之ヲ教規トシ之レニ次クニ教約ヲ附録トシ實際ノ施行ニ便ニシ併テ以テ神習教内一般ノ通規トス

神習教管長芳村正秉識

神習教々規

第一章 神事總規

第一條 神事ハ天神地祇ノ神律記紀ニ典歷朝ノ儀範我ガ大中臣家ノ遺訓相傳ニ則リ之ヲ施行スル事

第二章 神事細規

第二條 天津神國津神ヲ祭祀シ神事ヲ神習執行スル事

- 一 混沌未分ノ傳
- 一 天地剖判ノ傳
- 一 天之御柱ノ傳
- 一 二神御柱廻ノ傳
- 一 吐普加美依身多米ノ傳
- 一 太占ノ傳
- 一 日月星産ノ傳
- 一 國産ノ傳
- 一 草木産ノ傳

- 一 高天原ノ傳
- 一 夜見國ノ傳
- 一 大八洲國ノ傳
- 一 天地旋轉ノ傳
- 一 造化氣化体化ノ傳
- 一 地球外ノ傳
- 一 南北極ノ傳
- 一 國ノ御柱ノ傳
- 一 大八洲繫維ノ傳
- 一 人種化生ノ傳
- 一 掛卷ノ傳
- 一 息吹ノ傳
- 一 身禊ノ傳
- 一 祓除ノ傳
- 一 左右洗眼ノ傳
- 一 八華鏡圓鏡ノ傳

- 一日文ノ傳
- 一十種神寶ノ傳
- 一神人感格ノ傳
- 一八足臺清米ノ傳
- 一祈禳禁厭ノ傳
- 一探湯式ノ傳
- 一鎮火式ノ傳
- 一御勳事ノ傳
- 一布留部ノ傳
- 一日貴目ノ傳
- 一日貴目鳴絃ノ傳
- 一御符神秘符ノ傳
- 一御幣四垂ノ傳
- 一降神昇神ノ傳
- 一神殿御裝束ノ傳
- 一庭上神坐布設ノ傳

- 第三條 神習教本祠ノ祭神ヲ表名鎮祭スル事
- 一神主ノ傳
 - 一審神者ノ傳
 - 一鎮靈ノ傳
 - 一物忌ノ傳
 - 一別火ノ傳
 - 一二喰ノ傳
 - 一齋能美屋ノ傳
 - 一鎮魂ノ傳
 - 一神拜ノ傳
- 以上
- 一天御中主神
 - 一高皇產靈神
 - 一神皇產靈神
 - 一伊弉諾尊
 - 一伊弉冉尊

- 一 天照大御神
 - 一 歷代皇靈神
 - 一 天津神國津神
 - 本祠相殿祭神
 - 一 國常立尊
 - 一 大國主命
 - 一 少彥名命
 - 以上三神ヲ御嶽三柱ノ大神ト稱ス
 - 一 饒速日命
 - 一 底筒男命
 - 一 中筒男命
 - 一 表筒男命
- 以 上
- 第四條 宮中賢所ノ大神ヲ遙拜スル事
- 第五條 祭禮神事ヲ施行スル事
- 一 諸祭禮諸祭事及體操ヲ執行ス

- 一 諸神事ヲ施行ス
 - 一 天津神國津神ノ分位ヲ限定ス
 - 一 靈號ヲ贈リ崇禮ヲ鎮祭ス
 - 一 祈禳禁厭ハ我が大中臣家ノ神傳ヲ以テ之ヲ施行ス
 - 一 幽顯守護神系ヲ授與ス
 - 一 本祠ヨリ札守神符神供神水等ヲ授與ス
 - 一 本祠ヨリ靈代ヲ授與ス
- 以 上
- 第三章 宣教總規
- 第六條 惟神ノ道ヲ宣揚シ惟神ノ國体ヲ恢張スル事
- 第四章
- 第七條 惟神之道不言ノ教ヲ宣揚申明スル事
- 一 惟神ノ道ヲ申明ス
 - 一 幽顯一致ノ理ヲ申明ス
 - 一 神人威格ノ理ヲ申明ス
 - 一 四魂ノ(和魂荒魂奇魂幸魂)理ヲ申明ス

- 一 魂心氣ノ理ヲ申明ス
 - 一 神氣凝散轉旋ノ理ヲ申明ス
 - 一 生死ノ理ヲ申明ス
 - 一 神魂靈魄賦與歸着之理ヲ申明ス
 - 一 禍津日ヲ矯正シ直毘ニ核歸ス
 - 一 顯世ノ權限ヲ減損シ幽世ノ權限ヲ增益ス
 - 一 飲食ヲ轉換シ氣質ヲ變化ス
 - 一 嗜欲ヲ節減シ身命ヲ保養ス
 - 一 家蠶ヲ敬祭シ子孫ヲ蕃息ス
 - 一 姓氏ヲ審辨シ事業ヲ獎勵ス
 - 一 凶禍ヲ移轉シ吉祥ヲ祈請ス
 - 一 典籍ヲ講習シ物理ヲ研精ス
- 以上
- 第八條 惟神之國体ヲ依張スル事
- 一 神集神謀之傳
 - 一 瑞積國ノ傳

- 一 國之御柱ノ傳
 - 一 寶祚無窮ノ傳
 - 一 皇孫尊降臨ノ傳
 - 一 三種之神寶ノ傳
 - 一 日神御血統ノ傳
 - 一 十六菊章ノ傳
 - 一 日章ノ傳
 - 一 天津日嗣ノ傳
 - 一 天疎向津姬撞賢木嚴靈守護ノ傳
 - 一 五部神配侍ノ傳
- 第九條 寶祚ノ無窮國運ノ隆旺ヲ祈願スル事
- 一 皇室邦家ノ安寧幸福ヲ祈禳ス
 - 一 玉體ノ健全壽福ヲ祈禳ス
 - 一 皇族華族百官有司及人民ノ寧福ヲ祈禳ス
 - 一 天地燮和五穀豐饒ヲ祈禳ス
- 第十條 邦家ノ禮典ヲ修明執行スル事

- 一 君臣上下ノ禮儀ヲ申明ス
- 一 男女長幼尊卑ノ禮節ヲ申明ス
- 一 吉禮凶禮ノ式法ヲ申明ス
- 一 冠婚ノ禮式ヲ申明ス
- 一 男女頭髮衣服ノ制ヲ申明ス
- 一 諸ノ儀式ヲ申明ス

第五章 祝部總規

第十二條 葬儀靈祭ヲ施行スル事

第六章 祝部細規

第十二條 葬儀葬理靈祭ヲ執行スル事

- 一 祝部ノ傳
- 一 不淨ヲ祓除ス
- 一 幽冥守護ノ神系ヲ授與ス
- 一 獻幣宣告ノ禮ヲ執行ス
- 一 靈號ヲ贈與ス
- 一 葬具ヲ指示ス

一 入棺ノ品物ヲ指示ス

但邦家ノ財寶ヲ入棺スルヲ許サス

- 一 墓形墓表ヲ指示ス
- 一 忌服ノ制ヲ申明ス
- 一 七十五日祭ヲ行ヒ靈魂ヲ鎮祭ス
- 一 年月日ノ靈祭ヲ執行ス
- 一 靈舎ヲ指示ス
- 一 靈祭ノ年月日ヲ申明ス
- 一 祠宇内ニ靈場ヲ設置ス

以上

第七章 辨事總規

第十三條 教内ノ事務ヲ總理スル事

第八章 辨事細規

第十四條 教内ノ統紀一切ノ事務ヲ執行スル事

- 一 教名ヲ神習教ト稱シ其祠宇ヲ神習教本祠ト稱シ一教ノ事務ヲ總轄スル所ヲ神習教大教廳ト稱シ之ヲ東京ニ設置ス

但廳内ニ神事宣教祝部辦事ノ四局ヲ設ケ分掌ス
 一大教廳内ニ從來御嶽教會ヲ置キ該會一切ノ教務ヲ總理ス
 一各地方ニ本祠本教出張所分祠及ヒ直轄教會所分支教會所講社事務取扱所ヲ
 設立シ其部内一切ノ教務ヲ整理ス尤モ該所ニ一等ヨリ五等迄ヲ置キ之ヲ區
 分ス

但本條設立廢合移轉ノ義ハ明治十七年十月三十日內務省戊第二號布達ニ
 照準ス

第十五條 祠宇境内ニ齋能美屋ヲ建設スル事

但前條款但書ニ照準ス

第十六條 管長ヲ定ムル事

一管長ハ現在管長ノ子孫ヲ以テ永遠傳統スル者トス若シ子孫之レ無キ時ハ其
 血統ヲ以テ之ヲ定メ前管長ノ高弟子之ヲ補翼スル者トス
 但前管長ヨリ神事道統ヲ相傳シ學術德望アル者
 一管長ハ前管長之ヲ撰定捺印シ教内高級ノ教師二名以上加印シテ其認可ヲ請
 フ

第十七條 管長ハ教務一切ヲ擔任總理スル事

一神事道統教旨學術ヲ傳教ス
 一祭事祭禮禮儀神拜ノ諸式ヲ傳教ス
 一教師ヲ進退シ職員ヲ任免ス
 一教會ヲ開設シ講社ヲ結集スル者ニ其名稱ヲ許ス
 一教内ニ於テ祈禱禁厭ヲ爲ス者ニ免許狀ヲ授與ス
 一教級ヲ授ケ靈號ヲ撰定ス
 一神拜詞祝詞ヲ撰定纂述ス
 一教師ノ禮服ヲ指定ス
 一教規教約ヲ撰定シ或ハ刪補シ其允可ヲ請フ
 一教師教子ノ諸請願ヲ指揮ス
 一修道専門學校及ヒ教養普通學校ヲ設立ス
 一教旨教書ヲ編述ス

第十八條 教師ヲ教正講義訓導ト稱シ職員ヲ神教使。祝部。辦事。ト稱スル事

一教正ヲ正權大中少ノ六級ニ分ツ
 一講義ヲ正權大中少ノ六級ニ訓導ヲ正權二級ニ別ツ
 一教導職試補ヲ置キ教師教級十五級ニ當ツ

- 一 神教使ニ一等ヨリ十六等迄ヲ置キ神事宣教ノ事ヲ掌トラシム
- 但教師ヲ以テ之ニ當ツ
- 一 祝部ニ一等ヨリ八等迄ヲ置キ葬儀ノ事ヲ掌ラシム
- 但教師ヲ以テ之ニ當ツ
- 一 辨事ニ一等ヨリ八等迄ヲ置キ事務ヲ掌トラシム
- 但辨事ハ教師外ノ者モ之ニ當ツ
- 一 教級ニ一級ヨリ八級迄ヲ置キ神教子ニ授ケ
- 一 教子中ニ大社長権大社長正副社長正副取締役世話掛ヲ置キ講社中ノ事務ヲ掌ラシム
- 一 本教ニ信徒スル者ヲ汎稱シテ教子ト云ヒ神文ヲ呈出スル者ヲ神教子ト云フ
- 第十九條 教師ハ試験法或ハ管長ノ特撰ヲ以テ進退スル事
 - 一 神事學術優等ニシテ事理ニ通曉スル者
 - 一 品行方正ニシテ人ノ師表タルベキ者
 - 一 德行有テ宣教ニ熱心ノ者
 - 一 物忌行法ヲ履行シ神理ヲ自得スル者
 - 一 教導職試補ハ教義篤志ニシテ向來望ミアル者

- 第二十條 職員ハ擧或ハ管長ノ特撰ヲ以テ進退スル事
 - 一 神教使ハ神事宣教ノ事ニ特達スル者
 - 一 祝部ハ葬儀ノ事ニ通達スル者
 - 一 辨事ハ事理法律筆算世能ニ通シ懇切ナル者
- 第二十一條 教師職員ハ神事宣教葬儀事務ヲ成規例格ニ從ヒ分掌スル事
 - 一 神事學術ヲ脩明シ教子生徒ヲ教導ス
 - 一 信徒教子ヲ募集シ講社ヲ結集ス
 - 但結社ハ教約中教務規約ニ準據ス
 - 一 神事祭禮及ヒ冠婚葬祭靈祭等ノ諸式ヲ執行ス
 - 一 神禮ヲ奉シ各地ヲ巡教ス
 - 一 文書記録庶務會計ヲ分掌ス
 - 一 教導職試補ハ教務ヲ練習施行ス
 - 一 本教施設上若シ有害有害ノ事アラハ共ニ管長ニ具申ス
- 第二十二條 本祠出張所分祠直轄教會所分支教會所講社事務取扱所及ヒ教導職教子等ニテ本祠再建營繕費本教教費永續費ヲ負擔スル事
- 第二十三條 教導職ノ禮服ヲ撰定スル事

一教師ハ齋服狩衣直垂淨衣格衣ノ五品ヲ以テ禮服トシ其階級ヲ定メ管長之ヲ指示ス

一於衣指貫ヲ以テ女教師ノ禮服トス

第二十四條 報本反始ノ典ヲ舉ケ慎終追遠ノ實ヲ表シ皇化ヲ翼賛シ民徳ヲ歸厚スル事

一邦家ニ大勳有テ其巧徳民庶ニ光被スル神靈ハ其靈祠ヲ建テ之ヲ鎮祭シテ尙邦家安寧ノ其護ヲ希圖ス

但靈祠設立ハ其筋ヘ出願ス

一國益ノ爲ニ身命ヲ天シ或ハ國事ニ体軀ヲ斃シ無憑ノ靈ハ之ヲ鎮祭シ其冥福ヲ祈念シ邦家ヲ鎮護ス

第二十五條 博施濟衆ノ方ヲ設ケ厚生利用ノ道ヲ圖ル事

一山海ノ道利ヲ興シ農魚ノ裨補ヲ謀ル

一衛生ノ方ヲ講シ疾病ヲ未萌ニ防ク

一道路橋梁ヲ經營シ行路ノ便益ヲ謀ル

一感化院救濟院貧病院等ヲ興設ス

一文部省學則ニ照準シ教子講社中ニ小學校ヲ設立ス

第二十六條 名勝舊跡古代ノ建造物ヲ保持スル事

第二十七條 古今治教宗教制度文物ノ沿革ヲ商量纂述スル事

第二十八條 自他教派ノ紛糾ヲ未萌ニ慎省シ邦家ノ安寧ヲ希圖スル事

以上

右條款ヲ以テ神習教規トス

附錄 規 神習教教約

- 神習教教約中別テ五種トス
- 其一ヲ神事内外傳修業規約トス
- 其二ヲ教導職試驗規約トス
- 其三ヲ教務規約トス
- 其四ヲ祈禱禁厭免許規約トス
- 其五ヲ懲誡規例トス

附錄 神習教約

○神事内外傳修業規約

第一章 總 規

一我皇朝ノ神事其傳ルヲ尙矣
天孫降臨ノ時天上ヨリ神傳スル有リ又饒速日命降世ノ時天上ヨリ神傳スルアリ又大日貴命少彥名命ヨリ相傳スル有リ以上ノ三傳即歷朝ノ儀典ニシテ（歷朝天皇天神地祇ヲ敬祭シ玉ヒ又神祇官ノ設アリ又神主祝部呪禁博士呪禁師等ヲ置レタルヲ以テ見ルヘシ）而シテ悉ク我大中臣家ニ傳リ以テ之ヲ繼承護持ス其神事タル所謂不言ノ教ニシテ即我惟神ノ道ノ由テ出ル所ナリ斯道獨リ我皇國ニ在リテ而シテ未曾テ他ノ國ニアルヲ聞カズ今之ヲ神習スル者勇進勵精勉メテ已マザレハ其神事内外傳全科ヲ相傳シ而シテ造化氣化体ノ三化ヲ始メ神秘ノ蘊奧ヲ極ムルヲ得ベシ

第二章

一神事ヲ相傳修業スルニ當テヤ尤物忌法祓除法ヲ勵行シ食色飲酒ヲ節シ嗜欲ヲ屏ケ洗心養氣以テ天地ノ御柱ト對峙シ天地ノ神氣ト來往シ神人和融スルノ神機ヲ默契ス可シ

第三章

一我惟神ノ道教タル幽顯一致ナルカ故ニ眼ヲ開キテハ顯世ノ顯理ヲ觀察シ眼ヲ閉チテハ幽世ノ幽理ヲ見證シテ天地萬物ノ神理ヲ默識神通實踐行スルニ在リ之ヲ學習スル者其性ノ近キニ因リテ或ハ顯理而已ニ拘リ或ハ幽理而已ニ泥ミ一隅ヲ擧テ以テ小成ニ安ンス可ラス

第一條 細 規

一神事内傳ノ相傳ヲ受ケント欲スル者ハ先ツ誓書ヲ差出シ而シテ後就業スベシ○神事外傳ノ傳授ヲ乞フ者ハ入門書ヲ差出シ脩行スヘシ

但誓書并入門書式別ニ在リ

第二條

一神事ヲ行フニ至リテハ戒慎惕若シ苟モ他言スヘカラス如何トナレハ神機ヲ漏洩スルト又人ヲ誤ルト墮等ノ弊トノ恐レアレハナリ

第三條

一神事内傳ヲ八科ニ分子神事外傳ヲ八級ニ分子粗ヨリ密ニ淺ヨリ深ニ入り終ニ道ノ本源ニ達セシム其科級次第左ノ如シ

第四條

一 神事外傳 第八級

○一行身禊ノ傳 相傳自修

○大諱詞ノ傳 同

○造化詞唱ヘノ傳 同

○一物忌ノ傳 同

○神事外傳 第七級

○二行身禊ノ傳 相傳自修

○二物忌ノ傳 同

○身禊祓詞ノ傳 同

○息吹ノ傳 同

一 神事外傳 第六級

○三行身禊ノ傳 相傳自修

○三物忌ノ傳 同

○大祓詞ノ傳 同

○息吹ノ傳 自修

一 神事外傳 第五級

- 四物忌ノ傳 相傳自修
 - 神拜詞ノ傳 同
 - 御幣下申ノ傳 同
 - 息吹ノ傳 自修
- 一 神事外傳 第四級
- 五物忌ノ傳 相傳自修
 - 神拜式ノ傳 同
 - 金木ノ傳 同
 - 四垂ノ傳 同
 - 息吹ノ傳 自修
- 一 神事外傳 第三級
- 六物忌ノ傳 相傳自修
 - 卷太麻行事ノ傳 同
 - 祓式ノ傳 同
 - 五元神御幣ノ傳 同
 - 息吹ノ傳 自修

一 神事外傳 第二級

○七物忌ノ傳

○別火ノ傳

○鹽水行事ノ傳

○神坐御裝束ノ傳

○神饌ノ傳

○息吹ノ傳

一 神事外傳 第一級

○八物忌ノ傳

○八方金木清米ノ傳

○八方火清米ノ傳

○祈禱坐法ノ傳

○守護神方面ノ傳

○二鏡備ノ傳

○息吹ノ傳

○二喰ノ傳

相傳自修

同

同

同

自修

同

相傳自修

同

同

同

同

同

自修

相傳自修

以上

第五條

第一科

一 神事內傳

○九物忌ノ傳

○祓除ノ傳

○內部物忌ノ傳

○身褻祓詞ノ傳

○祈禱禁厭ノ傳

○八足清米ノ傳

一 神事內傳 第二科

○十物忌ノ傳

○最要祓詞ノ傳

○內部物忌ノ傳

○探湯式ノ傳

○祈禱禁厭ノ傳

○八足清米ノ傳

相傳自修

同

同

同

同

同

同

相傳自修

同

同

同

同

同

一神事內傳 第三科

○十一物忌ノ傳

○內部物忌ノ傳

○國産之傳

○日文之傳

○祈禱禁厭ノ傳

○八足清米ノ傳

一神事內傳 第四科

○十二物忌ノ傳

○內部物忌ノ傳

○草木産之傳

○鎮火之傳

○祈禱禁厭ノ傳

○八足清米ノ傳

○日月星産ノ傳

一神事內傳 第五科

相傳自修

同

同

同

同

同

相傳自修

同

同

同

同

同

同

相傳自修

同

同

同

同

同

同

相傳自修

同

同

同

同

同

同

同

第六科

○十三物忌ノ傳

○內部物忌ノ傳

○混沌未分之傳

○天地剖判之傳

○八足清米ノ傳

○崇神祭之傳

一神事內傳

○十四物忌ノ傳

○內部物忌ノ傳

○天御柱ノ傳

○二神御柱廻之傳

○造化詞ノ傳

○太古之傳

○八足清米ノ傳

○左右洗眼ノ傳

○鎮靈之傳

一神事內傳 第七科

- 十五物忌ノ傳
 - 高天原之傳
 - 夜見國之傳
 - 國御柱ノ傳
 - 大八洲國ノ傳
 - 天地旋轉ノ傳
 - 造化氣化体化ノ傳
 - 降神身神式ノ傳
 - 神主ノ傳
 - 審神ノ傳
 - 大八洲繫維ノ傳
 - 八足清米ノ傳
- 一神事內傳 第八科
- 十五物忌ノ傳
 - 南北極ノ傳
- 相傳自修
- 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
- 同 相傳自修

- 十種神寶ノ傳
 - 登村呂許志ノ傳
 - 神人威格之傳
 - 掛卷之傳
 - 日岐目之傳
 - 同鳴絃之傳
 - 齋能美屋ノ傳
 - 御柱事物ニ有ル之傳
 - 布留部之傳
 - 鎮魂之傳
 - 地球外之傳
- 以上
- 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

附規 神習 教約

○教導職試験規約

第一章 總 規

一 凡神道教導職タル者其職任ニ堪ルハ甚タ重ク且ツ難シ矣我惟神ノ道ヲ窮メ我神習ノ業ヲ修メ而シテ幽顯ニ途ニ貫通セザレハ其職ニ適ヒ其任ニ堪ル者ト謂ベカラス今其道ヲ學フ豈又容易ナランヤ其法宜シク我皇朝固有ノ神事ヲ神習シ記紀二典ノ眞理ヲ講明シ天地事物ノ眞理ヲ審辨シ而テ后幽顯一致ノ妙境ニ至ルベク又傍ラ諸哲學ノ蘊奧ヲ研精シ以テ斯道ヲ培養スベキ也然リ而シテ道之玄邈ナル教之曠大ナル博ク學テ方無シト雖凡然レ亦其目的ヲ極定シ歸着ヲ確守セザル可ラス因テ博ヲ約シ繁ヲ簡ニシ本教ノ旨趣ニ據リ試験及第ノ法ヲ設ケ以テ其職ニ補シ斯道ヲ擔任セシム

第二章 全

一 我皇國ハ惟神言舉セザル國体ニシテ所謂不言ノ教ナレハ應試就職スル者斯道ヲ實驗實行シ身ヲ以テ人ヲ教化スルニ在リ彼ノ舞文弄筆空談虛飾ノ弊ニ流ルハ此教ノ尤モ深ク戒ムル所ナリ

第三章 全

初テ教導職タルヲ欲スル者ハ先ツ終身教導職ニ從事シ志操變セザル旨ノ保証書ヲ親戚朋友ヨリ差出シ應試及第シテ就職スベシ○試験ノ法博文浩瀚ナル書籍ト悟心修道ノ造詣トヲ一々試問スル能ハズ因テ斯道ニ切實簡約ナル神事内外傳ノ科級并ニ記紀二典神道三要神道提要等ヲ以テ試験法ノ十六科ヲ設ケ應試及第スル者ヲ採補ス其次第左ノ如シ

教師檢定規則

本年五月第九號ヲ以テ教師檢定方法可伺出旨訓令有之候ニ付左ノ通り教規中試驗方法改正増補シ細則理由書相添へ上申仕候間至急御認可被下度候也
明治廿八年十一月

神習教管長 芳村 正 秉 印

内務大臣子爵野村 靖 殿

(朱書)

書面願之趣認可ス

割 印

明治廿八年十二月十三日

内務大臣子爵野村 靖 印

教師檢定規則

第一章 資格

第一條 本教々師タラント欲スル者ハ品行方正ニシテ終身本教ノ教導ニ従事スルノ志望ヲ有シ試験ニ合格スル者ヲ以テ補命ス

第二條 左ニ掲グル事項ノ一ニ觸ル、者ハ教師タル事ヲ得ス

- 一 年齢廿歳未滿ノ者
- 二 重罪其他悖徳醜行ノ犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ改悛ノ實ナキ者
- 三 家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ復權又ハ辨償ノ義務ヲ終フルト雖モ一ケ年ヲ經過セサル者
- 四 本教又ハ他教派ニテ懲戒ニ依テ免職セラレ改心ノ實ナキ者及改心ヲ表スト雖モ二ケ年ヲ經サル者

第二章 檢定種目

第三條 教師檢定ヲ分ツテ左ノ二種トス

第一種 試験

第二種 認定

第四條 第一種ノ試験ヲ分ツコト左ノ如シ

第一 普通學試験

第二 神事及道學試験

第五條 普通學試験科目左ノ如シ

但此試験ニ合格シタル者ハ再ビ普通試験ヲ爲ス事ナシ

- 一 國體 口述
- 一 倫理 筆記
- 一 國文 筆記
- 一 漢文 講讀
- 一 歴史 筆記
- 一 地理 筆記
- 一 作文 筆記
- 一 習字
- 一 算術 筆記

第六條 神事及道學ノ試験科目ハ左ノ七科ニ分テ優等者ヲ甲級ニ補シ尋常者ヲ乙級ニ補ス

神事道學試驗科目表

學科等級	神事試行	神事內傳	暗誦	誦讀	講義	口述	講義書	作文	祝文	探題	歌	裝束	舞祭	神事一級	神事二級	神事三級	神事四級	神事五級	神事六級	神事七級	神事八級	神事九級	神事十級	神事十一級	神事十二級	神事十三級	神事十四級	神事十五級	
														全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
				神道提要		萬葉集		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記	
				神道三要		名倫歌集		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記	
				寶祚明鑑		教苑花實		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記		古事記	
				神祕詞		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表		記祀神名表	
				神事外傳		神事詞		神事詞		神事詞		神事詞		神事詞		神事詞		神事詞		神事詞		神事詞		神事詞		神事詞		神事詞	
				全		全		全		全		全		全		全		全		全		全		全		全		全	

但第七科ノ試験ハ甲乙ノ別ヲ設ケス

第七條 試験科目中神事内外傳ハ本教ニ於テ修業ヲ爲サスト雖モ多年神事ヲ修シ自
得ノ實アル者ハ委員ノ試験ヲ以テ神事試行ノ各級科ニ照準シ採用スルモノトス

第八條 試験ノ順序ハ初メ普通學試驗ヲ爲シ次ニ神事及道學ノ試験ヲ爲ス受験者若
第一ノ試験ニ合格セサル時ハ第二ノ試験ヲ受クル事ヲ得ス

但第一ノ試験ニ合格シ第二ノ試験ニ不合格トナリタル時ハ普通試験ノ合格証ヲ
請求シ滿六ヶ月以上ヲ經過シ修業進學ノ上應試スル事ヲ得

第九條 新補試験ハ十三級以下トス
但高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ六級以下列任官タリシ者
又ハ列任官タルノ資格ヲ有スル者ハ十級以下ノ試験ヲ爲ス事ヲ得

第十條 教師六級以上ノ試験ヲ爲サントスル時ハ委員總長ヨリ管長ヘ具申シ豫メ聽
許ヲ得ル事ヲ要ス

第十一條 昇級試験ハ現級滿二年ヲ經過シ十二級以下ノ者ハ十二級ヲ越ユルヲ許サ
ス九級以下ノ者ハ九級ヲ越ユルヲ許サス六級以下ノ者ハ六級ヲ越ユルヲ許サス

但現級六級九級十二級ノ三者其一ニ在ルハ越級ヲ許サス

第十二條 檢定第二種ニ屬スル認定ハ左ノ數項ニ之ヲ分ツ
一 一級二級ノ教師ヲ補命スルハ試験ニ依ラス管長ノ特選ニ任ス但一級八名二級

十八名トシ關員アルニ非レバ補任セズ

- 二 一度本教ノ教師タリシ者ニシテ職ヲ辭シ再教師ニ復サンコトヲ願者ハ情狀ヲ審察シ試験ニ依ラスシテ原等級以下ノ教師ニ補スル事ヲ得
- 三 明治十七年八月十一日以前教導職タリシ者及他教派ノ教師タリシ者ニシテ更ニ本教教師タラムコトヲ志願スル者ハ試験ノ一部或ハ全部ヲ免除シ原等級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得

第十三條

二年以上本教ノ神事内外傳ヲ修業シ其八級八科ノ全部ヲ卒業スル者ハ試験ニ依ラス七級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得

但神事内外傳修業志願者ハ高等小學校卒業相當ノ學力ヲ備フル者ニ限ル

第十四條

左ニ掲クル條項ニ該當スル者ハ神事及道學ノ試験ヲ要セス普通學ノ試験ヲ爲シテ十二級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得

- 一 五年以上祓除神法ヲ修業シ太占法祈禱禁厭法ヲ鍊達シ教導救濟ノ任ニ堪ユル者
- 二 六年以上山籠シ神氣ニ通シ有神ノ實證ヲ顯シ身ヲ以テ人民ヲ感化教道スルノ任ニ堪ユル者

第十五條

左ニ掲クル條項ニ該當スル者ハ普通學試験ヲ要セス本教ノ主要ナル神事

及道學ノ一部或ハ數部ヲ試験シテ甲部ハ七級以下乙部ハ八級以下丙部ハ十三級以下ノ教師ニ補ス

甲 部

- 一 神宮權禰宜以上官國幣社宮司權宮司ノ職ニ在リシ者
- 二 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正ノ者

乙 部

- 一 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者

丙 部

- 一 神宮々掌以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者
- 二 神宮皇學館專科卒業者及皇典講究所五等司業以上ノ者
- 三 神道ノ教義ニ關シ有益ノ著述アル者
- 四 滿十年以上府縣社以下ノ神職ヲ勤績シタル者

第十六條

左ニ掲クル條項ニ該當スル者ハ普通學試験ヲ要セス直ニ神事及道學ノ試験ヲ行ヒ十三級以下ノ教師ニ補ス

- 一 尋常中學校卒業生若クハ其學科程度ト同等以上ノ學校卒業生
- 二 行政官吏判任官以上ヲ滿三年以上止勤務シタル者

三 小學校以上ノ教員ヲ滿三年以上勤續シタル者
第十七條 本教々師ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ一級ヲ進ムル事ヲ得
但進級ハ二回以上連續スルヲ得ス

一 本廳局課長ニシテ滿三年以上勤務シ功勞著シキ者
二 各教院教會所及講社事務所ノ主任者ニシテ滿三年以上勤務シ信徒ヲ結集シ功勞著シキ者

三 滿四年以上勤務シ布教傳道上ニ功績アル者
四 教義道學ニ關シ裨益アル著述ヲ爲シタル者

第三章 試驗諸則

第十八條 試驗ハ本廳宜教局并各地方教院教會所ニ於テ隨時之ヲ執行ス
但地方ノ狀況ニヨリ一縣下ニ數ヶ所二三縣下ニ一ヶ所ノ教院教會所ヲ以試驗場ニ充ツルヲアルヘシ

第十九條 前條豫定外ノ場所ニ於テ試驗ノ必要アル時ハ本廳ノ委員長及總長ノ合議ヲ具シ管長ノ聽許ヲ得テ開場スヘシ

第二十條 第二科以上ノ試験ハ本廳ノ外他所ニ於テ執行スル事ヲ得ス
但本廳委員長ニ於テ必要ト認ムル時ハ第十九條ノ例ニ倣ヒ本廳ノ委員ヲ派シテ

臨試セシムルハ本條ノ限ニ非ス

第二十一條 本教廳ニ於テ執行スル試験ハ試験委員及委員長之ヲ檢定シ其成績ヲ委員總長ニ報告シ委員總長ハ其評點ヲ審察シ之ヲ管長ニ報告ス

第二十二條 各教院教會所ニ於テ執行スル試験ハ委員ハ受験者ノ講義(口述ニ)誦讀(係ル分)作業ニ係ル者ヲ檢案シ一々評點ヲ下シ意見ヲ附シ委員長ヨリ委員總長ヘ報告ス其筆記答案ニ係ル者ハ其儘一纏シテ委員總長ニ回附スル者トス

但普通學科ハ地方委員之ヲ檢定シ成績表ニ參考書類ヲ添附シテ委員長ヨリ委員總長ニ進達シ指揮ヲ請フ可シ

第四章 試驗委員

第二十三條 本教廳宜教局ニ試験委員總長一名試験委員一名試験委員八名ヲ置ク
第二十四條 各地方ハ本管長ノ必要ト認メタル教院教會所毎ニ各二名ノ委員一名ノ委員長ヲ置ク

但十八條但書ノ場合ニ於テハ一名ノ委員長ヲシテ數ヶ所ノ職務ヲ兼子シメ數名ノ委員ヲシテ數ヶ所ノ檢定事務ヲ兼子シムルヲアルヘシ

第二十五條 試験委員總長ハ二級以上委員長ハ本廳ハ三級以上各地方教員ハ五級教會所以上委員ハ本廳ハ五級以上各地方ハ六級以上ノ教師中ヨリ管長之ヲ特選ス

第二十六條 試験委員總長以下ノ委員任期ハ各滿三年トシ期限ニ至リ尙職務ヲ繼續セシメントスル時ハ更ニ辭令ヲ發シテ之ヲ命ス

但時宜ニヨリ臨時委員ヲ設ク其指定シタル任期間ニ於テ三科以下ノ試験ヲ檢定セシムルコトアルヘシ

第二十七條 試験委員長ハ委員ヲ監督シ試験問題ヲ定ム委員若シ試験上偏倚ノ所爲アルカ又ハ行爲不適任ト認ル時ハ委員總長ヲ經テ管長ヘ解任ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條 委員總長若クハ委員長疾病事故アル時ハ委員長若クハ首席ノ委員代リテ其職務ヲ行フ者トス

第五章 立會人

第二十九條 試験委員ノ試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監査スル爲メ監長ハ時宜ニ依リ本廳ニ於テハ四級以上各教院教會所ニ於テハ六級以上ノ教師ヲ立會員トシテ試験場ニ臨席セシム

但時宜ニヨリ委員長ノ見込ヲ以本廳ハ神事局長宣教局長各教院教會所ハ其所長ヲ以テ立會人ニ換ユルコトヲ得

第三十條 立會人ハ試験場ニ臨監シ其試験終了シタル時ハ直ニ試験ノ實況ヲ委員總長ニ報告スヘシ

第六章 懲戒

第三十一條 試験委員立會人或ハ本廳各教院教會所ノ職員又ハ教師ニシテ試験問題ヲ受験人ニ漏泄シタル時ハ職員教師ニ在テハ免職或ハ降級ニ處シ受験人ニ在テハ其試験ハ無効ニ歸シ十ヶ年間受験セシメサル者トス

第三十二條 試験委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人虚偽ノ報告ヲ爲シタル片ハ前條ノ例ニ據ル

第六章 附則

第三十三條 教規教約ニ依リテ既ニ教師ニ補職セラレタル者ハ引續キ其職ニ在ルトヲ得

但從來本教ノ教師ニシテ未タ奉神文ヲ呈出セサル者ハ此際無洩差出スヘシ

第三十四條 此規則制定以後ノ補命進退ハ總テ此條規ニ依ル

第三十五條 此規則ニ抵觸スル從前ノ諸規則ハ爾後總テ消滅ニ屬ス

以上

教師檢定規則細則

第一條 本教ノ教師タラント欲スル者ハ先ツ本教ニ信從スル爲メ奉神文(數規教約中第一條)ヲ呈出シ次ニ教師志願書(本教ニテ印刷セシモノ)ヲ出シテ後試験ヲ受ク可シ

但己ニ奉神文ヲ出シ神教子タル者ハ此限ニ非ス

第二條 教師志願書ハ府下ハ本廳へ各地方ハ最寄ノ教院教會所へ差出ス可シ
但東京附近ノ地又ハ遠隔セル各地方ノ者ト雖本廳ニ於テ試験ヲ受ント欲スル者ハ其望ニ任ス

第三條 本廳及各教院教會所ハ教師志願書ヲ受タル片ハ其當否ヲ檢シ正當ト認ムルキハ之ヲ委員へ交付シ受験人ニ向ツテ試験ノ時日ヲ報道ス可シ

第四條 普通學科試験ノ評點ハ每項一百點ヲ滿點トシ平均點八十點以上ニシテ各項六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トス

普通學科試験科目左ノ如シ

一 國體 皇室典範 帝國憲法

一 倫理 論語

一 國文 徒然草

教師檢定規則細則

- 一 漢文 文章軌範
 - 一 歷史 日本通史 萬國新歷史
 - 一 地理 日本地理新書 萬國地理新書
 - 一 作文 公文體
 - 一 習字 楷行
 - 一 算術 四則
- 第五條 神事道學試驗ノ評點ハ每項一百點ヲ滿點トシ六十點以上ヲ得テ平均點數八十點以上ヲ甲級トシ以下ヲ乙級トシ六十點ニ滿タサル者ヲ不合格トス
- 第六條 昇級試驗ハ本人ヨリ本廳或ハ各地教院教會所ニ出願ス可シ
但試驗ノ階級ニヨリテ試驗場ヲ分ツコト檢定規則第三章第廿條ノ例ニ依ル
- 第七條 檢定規則第二章第十七條ノ進級ニ係ル者ハ其所管ノ教會所又ハ本教ノ教師中ヨリ本廳ニ申請シテ命ヲ俟ツヘシ
- 第八條 試驗ハ規則及細則ニ規定シタル者ノ外傍聽ヲ許サス
但本管長臨席シ又ハ管長特ニ參列ヲ許可シタル者ハ此限ニ非ス
- 第九條 神事道學ノ試驗ニ合格シタルルハ別ニ合格證ヲ與ヘス直チニ補職ノ辭令書ヲ授與スヘシ

第十條 試驗ニ用ヒタル受験人ノ答案ハ本廳宣教局ニ保存スル者トス
以上

神道提要二十八述題

- 第一 一天御中主神ノ神徳ヲ述フ
- 第二 一高皇產靈神ノ神徳ヲ述フ
- 第三 一伊弉諾尊ノ神徳ヲ述フ
- 第四 一天照大御神ノ神徳ヲ述フ
- 第五 一國常立尊ノ神徳ヲ述フ
- 第六 一天津神國津神八百万神ノ神徳ヲ述フ
- 第七 一歷代皇靈神ノ神徳ヲ述フ

第八

一 庶僑男命ノ神徳ヲ述フ

第九

一 天津神國津神分位ノ理ヲ述フ

第十

一 神明ニ敬事スベキ理ヲ述フ

第十一

一 無窮ノ國體ヲ恢張スヘキ理ヲ述フ

第十二

一 祖靈ヲ敬祭スベキ理ヲ述フ

第十三

一 人体化生ノ理ヲ述フ

第十四

一 神魂靈魄賦與ノ理ヲ述フ

第十五

一 四魂ノ作用ヲ述フ

- 第十六
一 魂心氣ノ活動ヲ述フ
- 第十七
一 神魂靈魄歸着ノ理ヲ述フ
- 第十八
一 神氣聚散轉旋ノ理ヲ述フ
- 第十九
一 生死ノ理ヲ述フ
- 第二十
一 衛生保命ノ理ヲ述フ
- 第二十一
一 氣質ヲ轉化スル理ヲ述フ
- 第二十二
一 物忌ノ理ヲ述フ
- 第二十三
一 禍津日ヲ矯正シ直日ニ復歸スル理ヲ述フ

- 第二十四
一 神人感格ノ理ヲ述フ
- 第二十五
一 祈禱禁厭ノ理ヲ述フ
- 第二十六
一 祭祀葬祭ノ理ヲ述フ
- 第二十七
一 幽顯一致ノ理ヲ述フ
- 第二十八
一 惟神ノ道ヲ述フ

附規神習教教約

○教務規約

第一章 總規

一凡ソ教務ヲ鞅掌スルヤ誠實ヲ主トシ懇切丁寧以テ之ヲ導キ誘掖勸奨以テ之ヲ施行スルニ在リ其實施々行ノ統紀節目多端ナリト雖モ勉メテ之ヲ簡約ニシ其教務ノ事項ヲ條記シ着手ノ順序ヲ左ニ條掲ス

第二章 細規

第一條 教名ヲ神習教ト稱シ其祠殿ヲ神習教本祠ト稱シ其事務ヲ總轄スル所ヲ神習教大教廳ト稱シ東京ニ設立ス

第二條 神習教内ニ從來御嶽教會ヲ置キ該會ニ係ル一切ノ教務ヲ掌ル

第三條 各地ノ便宜ニ依リ本祠出張所及ヒ分祠直轄教會所分支教會所講社事務所ヲ設置シ其事務ヲ掌ル尤モ該所ニ一等ヨリ五等迄ヲ置キ之ヲ區分ス

但一國內ニ本條分祠四所ヲ數ケ所設クル時ハ地名又ハ緣故アル名稱ヲ冠シテ之ヲ分ツアルヘシ○又之ヲ設ルニ當テヤ明治十七年十月内務省成第二號布達ニ照準スヘシ○顯面難形別ニアリ

第四條 從來結成セシ他ノ教會講社ニシテ本教ニ屬スル者ハ神習教何教會何講社ト稱スベシ

第五條 本祠出張所分祠ハ本祠ヨリ御分靈ヲ鎮祭スベク又直轄教會所分支教會所講社事務所等ハ本祠鎮坐ノ御神號掛軸ヲ奉掲シ朝夕獻饌奉仕スヘシ

第六條 本祠出張所分祠直轄教會所分支教會所講社事務所ハ其主任者及ヒ教子惣代三名以上ヲ定メ届ケ出ツヘシ該所ニ係ル一切ノ諸務ハ主任者及ヒ惣代ノ責任タルヘシ

第七條 前條分祠四所ヘハ非常ノ時用キル鑑札挑灯ヲ本廳ヨリ請ケ置クヘシ

第八條 本教ニ信徒歸依シ鑑札ヲ授クル者ヲ汎稱シテ教子ト云ヒ就中神文ヲ呈出シテ幽顯守護ノ神系ヲ授與スル者ヲ稱シテ神教子ト云フ此輩數人團結スル者ヲ稱シテ講社ト云ヒ數講社集合團結スル所ヲ出張所分祠分支教會所ト云ヒ又一教會創立歸屬スル者ヲ直轄教會ト云フ

第三章 教子細規

第九條 本教ノ神教子ト爲ランヲ欲スル者ハ先神文ニ住所姓名年齢ヲ記載シ捺印或ハ拇印シテ差出スヘシ
但神文并ニ用紙共下付施與スヘシ

第十條 神文ヲ呈出セハ神前ニ於テ入致式ノ祭典ヲ執行シ幽顯守護神系ヲ授與シ一級ヨリ八級迄ノ教級ヲ授ケベシ

第十一條 本教部内教導職職員教子ハ御神號ヲ與座ニ奉掲シ神鏡ヲ襟端ニ掛ケ門標ヲ門戸ニ掲ケ本教ノ職員教子タルヲ表彰スヘシ
但神鏡門標雜形四十二條ニ在リ

第四章 祭祀細規

第十二條 每期早起盥嗽洗眼シ神氣ヲ靜定シ自家ノ神前ニ向ヒ太尊詞ヲ唱ヘ敬拜シ本祠産土神ヲ遙拜シ祖先歷代ノ靈ヲ拜シ報本反始ノ禮ヲ盡シ以テ安全幸福ヲ祈ルヘシ

但洗米御酒御饌水等ハ適宜ニ獻供スベシ

第十三條 宮中賢所ノ大神等ヲ遙拜シ祖先以來受ケル所ノ鴻恩ヲ謝スヘシ

第十四條 寶祚ノ無窮國運ノ隆旺天地ノ燦和五穀ノ豐饒教内ノ安全幸福ヲ祈ル爲メ例年四月八日九日十日ノ三日間九月十六日十七日兩日間大中祭ヲ執行シ毎月九日二十七日小祭ヲ行ヒ說教ヲ爲シ毎月十五日祓除修行ヲ脩ム

但各地本祠出張所各教會所ハ本條ニ照準シ祭日ハ遙拜シ又說教祓除修行等ヲ爲スベク本條大中祭ノ日ハ參拜スベク參拜スル能ハサル者ハ必ラス遙拜スヘシ

第十五條 朝廷ノ御祭日中左ノ定日ハ各自ノ神座ニ神饌ヲ奠供シ鴻恩ヲ謝シ且邦家ノ安寧幸福ヲ祈ルベシ

一月一日	四方拜	一月三日	元始祭
一月卅日	孝明天皇祭	二月十一日	紀元節
二月四日	祈年祭	三月	春季皇靈祭
四月三日	神武天皇遙拜日	三月	秋季皇靈祭
十一月十七日	神嘗祭	十一月三日	天長節
十一月廿三日	新嘗祭	六月十二日	大祓

第十六條 本教殿内ハ勿論出張所分祠各教會所内ニ靈場ヲ設ケ依頼者ノ靈ヲ鎮祭シ其靈祭ヲ執行スヘク又祖靈社ヲ設ケル時ハ成規ノ通出願スヘシ
但春秋二季皇靈祭ノ日ヲ以テ大靈祭ヲ行フヘシ
此日新ニ靈祭ヲ請ハントスル者ハ祭日前ニ申出ベシ○但該日ハ一同參拜スヘシ

第十七條 父母ノ忌日ハ其靈ニ供饌シ其墓所ニ拜禮シ又祖先以下ノ墓所ヲ時々掃除スヘシ

第十八條 邦家ニ大勳有リテ其德澤民庶ニ光被スル神靈ハ其靈祠ヲ建テ之ヲ鎮祭シ

其ノ功德ヲ不朽ニ傳フルハ本教一般ノ義務トス但靈祠ヲ建ルニ當テハ官廳ニ出願スヘシ

第十九條 國事ニ斃レ無懣ノ靈ハ之ヲ鎮祭シ其靈ヲ慰ム又國益ノ爲ニ勤勞シ非命ニ死没シ其名顯レス其迹湮滅シタル者ハ其靈ヲ祭リ之ヲ慰ムルハ本教ノ義務トス

第五章 學習細規

第二十條 本廳ハ勿論出張所各分詞各教會所ニ於テ教義普通學校ヲ設立シ又ハ教義普通學○哲學課等ヲ置キ教内ノ子弟并ニ生徒ヲ教養シ其成材ニ隨テ教導職ニ登庸スヘシ○文部省ノ教則ニ照準シ小學校ヲ設立スルトモアルヘシ

第二十一條 本教ニ於テ神事學術祭式共ニ相傳修行スヘキ諸式法アリ本教ニ從事スル者精勵學脩シテ其奧義ヲ究メ自カラ安心立命ノ域ニ超入シ以テ人ヲ教化スベシ
第二十二條 本教ニ從事スル者ハ渾テ實行實踐ヲ主トシ身ヲ以テ率先シ神人ヲ感格シ人ヲ善ニ誘導スルヲ以テ本旨トス苟クモ空言虛飾弄筆舞文ノ所業有ル可カラズ又説教及ヒ修業ハ時ノ便宜ニ隨ヒ行フヘシ

第六章 教子心得細規

第二十三條 本教ノ教子ハ第一品行方正ニシ朝廷ノ法令ヲ遵奉シ租稅兵役ヲ始メ邦家ニ對シ服從スルノ務メヲ盡シ率先シテ他ノ模範トナルベク萬一國法ニ違犯シ

赤衣懲字紋ヲ着スル等ノコアレハ教子一同ノ大耻辱ナレハ精々素行ヲ謹慎スヘキナリ又法律ヲ知ラズシテ罪戾ニ陷キル者アリ故ニ平生相互ニ法律ヲ講習スベシ

第二十四條 本教ノ教子ハ渾テ同胞ノ親ヲ爲シ吉凶互ニ相慶吊シ疾病患難ヲ救済スヘク又各自使用ノ具ハ成丈ケ自國ノ品物ヲ用キル様注意スベシ

第二十五條 本教ノ教子ハ平常質素節儉ヲ守リ救荒ノ豫備ヲ爲シ自他救濟ノ法ヲ設ケ置クベク又タ協心戮力シテ國家ノ公益ヲ經營シ愛國ノ實功ヲ奏スベシ

第二十六條 本教教子中若シ父兄ノ教誨ヲ受ケズ言行道ニ背ク者アレハ教子職員ニ於テ懇諭ヲ加フベシ又父兄タル者其子弟ノ教育ヲ惰ル可カラズ又感化院救濟院貧病院等ヲ興設スベシ

第二十七條 本教ノ教子ニシテ若シ私黨及ヒ健訟雀角ヲ爲ス等ノコアレハ實ニ本教ノ耻辱ナルガ故ニ職員中ニテ精々取扱ヒ法術ヲ煩ハサル様平生厚ク注意スヘシ

第二十八條 各地教子中互ニ往來シ氣脉ヲ通シ美事良法ハ相協議シ一般ノ公益トナルヲ見認ルトキハ其旨ヲ本廳ニ申出ツベシ

第二十九條 教導職及職員神教子ニシテ儕輩ニ超ヘ非常ノ篤志若クハ特別勉勵スル者ハ不次ノ擢擢又ハ殊別ノ賞與ヲ行フベシ

第三十條 教内ニ於テ平生敬神忠孝貞女義僕及ヒ慈善ノ行アリ或ハ一技一業ニ長ス

ル者ハ其事述ヲ詳記シ社中一般ニ報告獎勵スヘキニ付其旨管長ニ具申スベシ
第三十一條 葬儀靈祭ヲ行フニ當テヤ丁寧ニ情誼ヲ盡シ其式法ヲ執行シ喪家ヲシテ
遺憾勿ラシムベク又本祠靈舎ヘ鎮靈ヲ乞ヒ又ハ謚號檢定ヲ乞フ時ハ其請ニ應スベ
シ

第七章 教子心得細規

第三十二條 毎日本祠ニ於テ教内教子一般ノ安全幸福ヲ祈念スルヲ以テ毎年一度部
内教子ヘ神札ヲ授與スベシ

第三十三條 教内各所ハ協議ヲ以テ平生金錢品物等ヲ醜集累積シテ其教費ニ充ツベ
ク尤モ各地ノ便宜ニ任セ適宜ノ法ヲ施行スベシ

第三十四條 各出張所分祠直轄教會分支教會講社事務所又教導職教子其分ニ應シ本
祠再建營繕永續資金并ニ本教教費永續費等ヲ負擔スル者トス

第三十五條 各教導職大正副社長副取締世話掛ハ春秋二季本祠大中祭之節ハ幣帛ヲ
獻スル者トス

第三十六條 教導職ハ齋服狩衣直垂淨衣格衣ノ五品ヲ以テ禮服トシ於衣指貫ヲ以テ
女禮服トシ其階級ヲ定メ管長之ヲ指示ス

第三十七條 教導職各地方巡教之節ハ管長ヨリ派出證書ヲ授ク各地ヲ巡教スルヤ其

風土人情ヲ視察シ地方民衛生ノ裨補ヲ爲ス様精々注意スベシ

第三十八條 祈禳禁厭ヲ執行シ神水御符等ハ適宜ニ授與スルモ妨ナシ但シ祈禳禁厭
免許ヲ所持スル者ニ限ル

第八章 職員細規

第三十九條 本教職員職制左ノ如シ

一 管長本教内教務一切ヲ擔任總理ス

但副管長又ハ代理ヲ置クモアルヘシ

一 教師ニ左記ノ名稱ヲ付シ本廳局課并ニ出張所分支直轄教會所分教會所等ノ諸務
ヲ分掌セシム

一 神教使ニ一等ヨリ十六等迄ヲ置キ神事宜教ノ事ヲ掌ラシム

一 祝部ニ一等ヨリ八等迄ヲ置キ葬儀ヲ掌トラシム

一 辨事ニ一等ヨリ八等迄ヲ置キ事務ヲ掌トラシム

以上

一 講社員ニ左ノ名稱ヲ付シ各講社事務所ノ事務ヲ分掌セシム

一 大 社 長 一 權 大 社 長
一 正 副 社 長 一 正 副 取 締

一正副出納取締

一正副世話掛

以上

第四十條 各局所ニ於テ簿書會計ヲ嚴重ニ詳記シ備ヘ置クヘシ
第四十一條 教師撰舉保証書雛形

○教師撰舉保証書 履歷書ヲ添ヘ出スヘシ

職名(朱書)

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍
姓 名

(何年何月生) (當何年何ヶ月)

一右之者終身御教ノ教義ニ從事仕度志願之者ニ付教師被命度且身分之儀ハ諸事引
受可申候間仍而此段撰舉保証仕候也

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍

親戚保証人

何 誰 印

年號月日

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍

身元引受人

何 誰 印

神習教管長芳村正兼殿

○職員

神教使 祝部 辨事 撰舉狀 雛形

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍

職名(朱書)

何

某

辨事ハ教師外モ採用スヘシ

何年何ヶ月

一右者朱書所標之職員當器之者ニ有之候間何卒本教役員ニ被命度身分之儀ハ諸事
引受可申此段撰舉保証仕候也

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍

親戚保証人

何 某 印

何 某 印

何 某 印

神習教管長芳村正兼殿

○講社職員撰舉狀

雛形

職名(朱書)

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍
(大社長正權社長取締世話掛等内) 何 某

一右者一講社中ニ於テ敬神篤志人望モ有之者ニ付何卒本教役員被命度此段撰舉仕候也

何年何ヶ月

年號月日

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地族籍

撰舉人

何

某

印

神習教管長芳村正兼殿

○請書 雜形

辭令書ノ原文ヲ掲ク

右謹而御請仕候也

年月日

何府縣何國何(區郡)何(町村)何番地

職名

何

某

印

神習教管長芳村正兼殿

第四十二條 一教内非常通常ニ用キル挑灯鑑札ハ左圖ノ如クス尤モ火災等ノ節ハ門戸ニ掲ケ同教員タルヲ表スベク同教員ハ之ヲ目標トシテ救援スベシ

用員社常通



札鑑常非

用常非



用員職



神習教
○非常鑑札

十級	九級	八級	七級	六級	五級	四級	三級	二級	一級	階級	教
權中講義	中講義	權大講義	大講義	權少教正	少教正	權中教正	中教正	權大教正	大教正	名稱	師
十等	九等	八等	七等	六等	五等	四等	三等	二等	一等	分等	職
同	同	同	同	同	同	同	同	同	神教使	名稱	員
六等	五等	四等	三等	二等	一等					分等	職
同	同	同	同	同	祝部					名稱	員
五等	四等	三等	二等	一等						分等	職
同	同	同	同	辨事						名稱	員
五級	四級	三級	二級	一級						教級	
同	同	同	同	神教子						神教子	

第四十四條 本教教師職員神教子等級表左ノ如シ

札鑑社講 表鏡神

裏

裏

門 標

惟 神

神 習 教

何々講社

金箔

何縣何國何郡何町何番地

華士族平民

姓 名

何年何月日生

十一級	少講義	十一等	同	七等	同	六等	同	六級	同
十二級	權少講義	十二等	同	八等	同	七等	同	七級	同
十三級	訓導	十三等	同			八等	同	八級	同
十四級	權訓導	十四等	同						
十五級	試補	十五等	同						
十六級	(及門生)	十六等	同						

第四十五條 本教出張所分祠教會所講社事務所區別位置左ノ如シ
 本祠出張所分祠一 直轄教會所一 分教會所一 支教會所一 講社事務所
 第四十六條 本教内へ入寮シ神事學術ヲ傳習セント欲スル者ハ入學證書ヲ保証人連署ニテ差出スヘシ
 第四十七條 教子ノ呈出スル神文左ノ如シ
 ○奉神文之事
 一天神地祇ニ誓ヒ神教子ニ列セラレ幽顯守護神系ヲ授與相成候上ハ生死共御教旨ヲ確守シ安心立命以テ惟神ノ道ヲ神習ヒ

印割

朝廷ノ御法令ヲ遵守シ人間本分ノ職務ヲ精勵シ信心無懈怠可致仍テ赤心ヲ表スル爲メ奉神文如件

年號月日

何(府縣華士族平民區郡村町)番地

姓 名 印 或ハ拇印

神習教管長芳村正秉殿

第四十八條 教師汎出証及ヒ祈禳禁厭免許願同施行免許狀左ノ如シ

○汎出証

右者今般布教傳道教子募集講社結集之爲メ何府縣へ汎出教務擔當可致候事
 年號月日

神習教管長 芳村正秉 **印**
 ○祈禳禁厭施行免許願

何(府縣)何族何國何(區郡)何(町村)何番地
 教師職名 姓

(何年何月何日生何年何ヶ月)

右者從來惟神ノ道ヲ修メ其神事ヲ神習罷在候ニ付御教約中祈禳禁厭免許規約之條々堅ク謹守可仕候條該御免許狀授與被成下度此段相願候也

年月日

右 姓名 印
保 証 人 姓 名 印

神習教管長芳村正乘殿

○祈禳禁厭施行免狀

何(府縣)何族

姓 名

何年何ヶ月

印割

惟神ノ道ヲ神習ヒ其神事内傳第何科卒業自得ヲ證認ス因テ祈禳禁厭免許規約ニ照據シ此神事何等免許狀ヲ授與候事
年月日

神習教管長 芳村正乘 印

以上

教規神習教約

○祈禳禁厭免許規約

第一章 總 規

一 祈禳禁厭ハ我大中臣家ニ傳フル所ノ神事ヲ相傳シ其卒業ノ科級自得ノ淺深ニ從ヒ神事一等ヨリ八等迄ノ免許狀ヲ授與シ施行セシム其授與ノ順序實施ノ例規等下款ノ通り心得ベキ事

第二章

一 祈禳禁厭ヲ爲ス者神事ヲ精勵シ平生物忌躬行堅固ナラサレハ之ヲ行フモ其驗少シ故ニ本職ト雖モ管長ノ免許ヲ所有スル者ニ非サレハ施行スルヲ得ス若シ無免許ニテ祈禳禁厭ヲ爲ス者ハ之ヲ停遏スヘキ事

第三章

一 祈禳禁厭ヲ實施スルニ當テハ平素相傳スル旨趣ヲ不誤ハ勿論行政上ノ公布ヲ謹守シ醫師治療中ノ者ニ限り施行スベキ事

第四章

一 無病ノ者ニテ豫防ノ爲メ天質虛弱ニシテ神氣回復ノ爲メ又不具癘疾ノ者慢性病ノ

者又俗ニ持病ト稱シ湯藥無効ノ者難治ニシテ醫師藥劑ヲ不投者又邊陲ノ地ニシテ急發ノ患者負傷者等ニテ醫師來診迄ニ時間ヲ移シ傍觀スルニ忍ヒサル者等祈禳禁厭ヲ乞フ時ハ醫師ノ未タ施療セサル者ト雖モ施行シテ妨ケナキ事

第五章

一己ニ免許狀ヲ所有スト雖モ若シ不正ノ所業アル歟又ハ他教ニ轉属スル時ハ免許狀ヲ返還セシムヘキ事

第六章

一祈禳禁厭法ヲ己ニ修業自得スル者ハ試験ノ上神事内傳科條ニ照ラシ免許狀ヲ授與スヘキ事

第七章

一免許狀ハ神前ニ於テ授與式ノ祭典ヲ行ヒ之ヲ授ク其六等以上ハ神道ニ要圖說ノ卷物ヲ添授スヘク其科目左ノ通り心得ヘキ事

但授與祭ノ節報謝スルハ其等ニ應シテ差アリ

第八章 細規

一神事内傳第一科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事八等免許狀ヲ授與ス
一神事内傳第二科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事七等免許狀ヲ授與ス

一神事内傳第三科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事六等免許狀ヲ授與ス
一神事内傳第四科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事五等免許狀ヲ授與ス
一神事内傳第五科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事四等免許狀ヲ授與ス
一神事内傳第六科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事三等免許狀ヲ授與ス
一神事内傳第七科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事二等免許狀ヲ授與ス
一神事内傳第八科ヲ相傳シ卒業自得スル者ハ祈禳禁厭神事一等免許狀ヲ授與ス
以上

附錄 神習教教約

○懲戒規約例

第一章 總 規

一 教導職ハ躬行ヲ以テ率先シ衆庶ノ標準摸範ト爲ルヘキ者ナレハ固ヨリ過誤失錯ヲ爲シ懲戒違則例等ニ觸ル、者ハ無之キ筈ナレモ亦此形体アレハ時トシテ過失全ク無シト保スベカラス因テ此懲戒法ヲ設ク其之ヲ設ル所以ノ意ハ之ヲ未前ニ示シ以テ之ヲ未萌ニ防キ究竟懲戒ヲ爲スヘキモノ無キヲ希圖スル所以ナリ

第二章 教 規 例

第一條 懲戒スル法ヲ分テ三種トス

一 重懲戒

一 輕懲戒

一 爲行誠

第二條 重懲戒ハ其實跡ノ事狀理由ヲ檢按シ管長ヘ申請シ管長之ヲ決行ス

第三條 輕懲戒ハ前條ノ手續ヲ以テ意見ヲ附シ管長ヘ申請シ裁下ヲ得テ之ヲ斷行ス

第四條 爲行誠ハ其局所長主任者適宜之ヲ處置シテ管長ヘ具申ス

第五條 重懲戒爲行誠ハ懲戒爲スヘキ違則例ノ條款ニ觸ル、事アラハ教規例ニ照ラシ斷行ス

第六條 違則者アリ懲戒スヘキ者ハ其不行跡ノ實証ヲ得テ局所ニ於テ審査ヲ遂ケ其手續証據書類ニ意見書ヲ添ヘ局所ノ主任者並ニ惣代三名以上連署ヲ以テ管長ヘ具申ス

但本文ノ手續ヲ爲サル者ハ其効ヲ有セス

第七條 ○局所ハ大教廳ノ四局及出張所直轄教會所分支教會講社事務取扱所ヲ云

職願ヲ出サシム若シ其旨ニ違ハザル者アラバ管長ヨリ直ニ解免ス

第八條 懲戒ニ依リ免職スル者ハ滿五年以上降級スル者ハ滿三年以上ヲ經テ改良ノ實効著ハルトニ非ザレハ再補昇級スルヲ許サス

第九條 謹慎ヲ命ゼラレタル者ハ滿二年間昇級スルヲ許サス

但謹慎ノ實狀悔悟改心ノ實功著シキ者ヲ保証シ出ツル時ハ此限ニアラス

第十條 爲行誠ニ係リタル者ハ容易ニ昇級スルヲ許サス悔悟改心ノ實功アル者ハ此限ニアラス

第二章 教 約 例

第十一條 重懲誠ヲ分テ免職降級トス

第十二條 輕懲誠ヲ分テ謹慎譴責トス

第十三條 重懲誠免職ニ係ル者ハ其事由テ各管長ヘ通牒スベシ

第十四條 謹慎ハ五日以上三十日以下ノ物忌法ヲ守修セシム

第十五條 譴責ハ其事由ヲ示シ謹誠書ヲ附シテ將來ヲ誠シメ謝狀ヲ出サシム

第十六條 爲行誠ハ過失ノ輕重ニ隨ヒ被除ヲ修行セシム

第三章 違則例

第十七條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ重懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重キヲ免職其輕キヲ降級トス

其一 神事内傳ヲ他人ヘ漏洩スル者

其二 管長ノ命令ヲ奉セサル者

其三 本教ノ教規教約條例ヲ遵守セサル者

其四 教正局所長ニ對シ公然不敬不遜違令ノ者

其五 過誤失錯ト雖モ怠惰ヨリ生スル者

但過失モ教義ニ害アラハ其狀ニ因テ之ヲ處分ス

其六 妄ニ吉凶禍福ヲ唱ヘ人ヲ惑シ私利ヲ圖ル者

其七 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ欺惑シ風俗ヲ紊ル者

其八 管長眞跡ノ御神號ヲ僞書スル者

其九 本廳諸局ノ所用物品ヲ僞用スル者

其十 本廳諸局所ノ諸教費募集ノ稱呼ヲ以テ詐術ヲ爲ス者

其十一 著シキ不品行ヲ以テ譴ヲ來シ本教ノ体面ヲ汚辱スル者

其十二 屢重輕懲誠爲行誠ヲ受ケ猶素行修ラサル者

其十三 教費金幣帛料及ヒ盟約諸納金納期兩度ヲ怠ル者

其十四 本祠ノ神札守ヲ僞造スル者

第十八條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ輕懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重キヲ謹慎其輕キヲ譴責トス

其一 局所諸長主任ノ命令ニ遵ハサル者

其二 疎放懈怠ニシテ本教ノ教規教約ノ條例ニ違フ者

其三 管長ノ許可ヲ得スシテ規約條例ニ擬似スルモノヲ部内ヘ施設スル者

其四 本廳ノ許可ヲ得スシテ本廳ノ名義ヲ以テ告達ヲ爲ス者

其五 凡ソ諸達書ヲ受ケテ時日ヲ遲緩シ事ニ害アル者

其六 本廳ノ名アル用紙ヲ猥リニ私用スル者

其七 猥リニ訴訟事件ニ關涉ル者
 其八 局所長教正以上ニ對シ公然不敬不遜違令ノ者
 其九 同職ニ對シ公然罵詈ヲ爲ス者
 其十 管長及教正局所長ニ對シ敬禮儀式ヲ遺失スル者
 其十一 教旨研究ヲ怠リ布教ヲ放下スル者
 其十二 局所講社ノ承諾ヲ得スシテ妄ニ所屬轉換ヲ名トシ人氣ヲ煽動スル者
 其十三 局所及講社ノ公擧投票標ヲ故意ヲ以テ奸策スル者
 其十四 教費金諸定約金納期ヲ怠ル者
 其十五 爲行誠三度ニ及ヒ猶悔悟セサル者
 其十六 人ヲ譏謔シ離間スル者
 其十七 擧法ニ違ヒ擧登用ヲ圖ル者
 其十八 僞言詐術ヲ爲ス者
 其十九 教導職ノ服制ニ違ヒ異様ノ服ヲ着用シ衆目ヲ亂ス者
 第十九條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ爲行誠トス
 其一 辦事社長ノ指揮ニ從ハサル者
 其二 約束ヨリ成立タル臨時教費割等ヲ還納スル者

其三 他事ヲ口實トシ本教ノ義務ヲ怠ル者
 其四 局所講社ノ約則ニ違フ者
 第二十條 凡ソ德義上ニ於テ責ムヘキ者ハ此違則例概目ニ比準シテ處理スル者トス
 以上

神宮教規

甲第二十三號

今般當教規之儀各本部長ノ會議ヲ開キ議決ノ上別冊之通修正仕度至急御認可被下
度仍テ會議々長並議員連署書相添此段奉願候也
明治二十六年六月廿六日

神宮教管長 田中 賴庸 印

內務大臣伯爵 井上 馨殿

內務省指令秘乙第二六四號

神宮教管長

割 印

本年六月廿六日付甲第二十三號
願教規修正ノ件認可ス

明治廿六年七月十三日

內務大臣伯爵 井上 馨 印

神宮教規

神宮教規

第一章 總則

- 第一條 神宮教ハ明治五年以來神宮司廳ノ創設シタル教院各本部教會ヲ一括シ十五年一月神宮教導職分離ノ際内務省ノ允許ヲ得テ神宮教ト稱ス
- 第二條 本教ハ教院本部及教會所分教會所所屬教會所等ニ左ノ主神ヲ奉齋ス
天照坐皇大神
- 第三條 本教ハ皇祖ノ彙訓ヲ奉シ國体ヲ明ニシ惟神ノ大道ヲ修メテ世教ヲ立ルヲ以テ本旨トス
- 第四條 本教ニ於ケル神祇ノ祭祀冠婚喪祭ノ儀式ハ皇國固有ノ典範ニ基キ之ヲ執行ス
- 第五條 本教ハ信徒ノ請ニ應シ祈禱報賽ヲ修メ神符神饌ヲ授ク
- 第六條 本教ハ教旨ヲ宣布シ講社ヲ結収ス
- 第七條 本教ノ學寮ハ皇國ノ典籍ヲ主トシ傍漢洋ノ學ヲ講習ス
第二章 教務所
- 第八條 本教ノ教務ヲ總轄スル所ヲ東京ニ置キ之ヲ神宮教々院ト稱ス

- 第九條 伊勢ノ國度會郡宇治山田町ニ特ニ神宮教本院ヲ置キ本教ノ教務ヲ分擔ス
- 第十條 全國ヲ大別シテ教區ト爲シ各教區ニ本部ヲ置ク
教區ハ神宮教某(本部所在) 教區本部ハ神宮教某(所在) 本部ト稱ス
教區ノ區域本部ノ位置ハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ定ム
- 第十一條 教區ヲ小別シテ小教區ト爲シ各小教區ニ教會所ヲ置ク小教區ハ神宮教某(教會所在) 小教區教會所ハ神宮教某(所在) 教會所ト稱ス
小教區ノ區域教會所ノ位置ハ本部長之ヲ定メ管長ノ認可ヲ乞フ
- 第十二條 小教區ヲ更ニ分テ分教區ト爲シ各分教區ニ分教會所ヲ置ク
分教區ハ神宮教某(分教會所) 分教區分教會所ハ神宮教某(所在) 分教會所ト稱ス
分教區ノ區域分教會所ノ位置ハ本部長之ヲ定メ管長ニ報告ス
- 第十三條 教院本部ニ學寮ヲ置ク
教院ニ設クルモノハ管長之ヲ設置シ其事務ハ教院ニ於テ之ヲ掌理シ本部ニ設クルモノハ本部長之ヲ設置シ其事務ハ本部ニ於テ之ヲ掌理ス
- 第十四條 本教ノ教旨ヲ奉シ別ニ教會ヲ設立セント欲スル者アルトキハ本部長ヲ經テ管長ニ申請シ教會所ヲ設クルヲ得セシム其教會所ヲ神宮教某(設立) 教會所ト稱シ其所在教區ノ本部ニ屬ス

但信徒他ノ教區ニ亘ル者アルキ其地方ニ係ル教務ハ其教區ノ本部ニ屬セシム
第十五條 信徒ヲ結合シテ一團ヲ爲ス者ヲ神風講社ト稱シ番號ヲ以テ之ヲ區分シ便
宜ニ講社事務扱所ヲ置ク其位置ハ本部長之ヲ定メ管長ニ報告ス
所屬教會ニ於テ結合スル講社ハ前項ノ番號ニヨラス單ニ其(設立ノ)講社ト稱ス
講社事務扱所ヲ設クルハ前項ニ同シ

第二章 職員教師

第十六條 教院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 一 管長 一名
- 二 辨理 常在一名交代一名
- 三 課長 五名
- 四 錄事 廿五名
- 五 布教使 八名
- 第十七條 神宮教本院ニハ別ニ職員ヲ置カス教院ノ職員ヲ以テ之ヲ兼攝ス
- 第十八條 各本部及教會所分教會所所屬教會所ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 一 長 一名
 - 二 課長 三名

第十九條 各番神風講社及所屬教會講社ニ左ノ職員ヲ置ク

- 三 錄事 無定員
- 四 自一等講師 教師七級ヨリ十五級ニ相當ス無定員
- 一 社長 一名
- 二 副社長 無定員
- 三 取締 無定員
- 四 副取締 無定員
- 五 世話係 無定員

第二十條 本教ニ左ノ教師ヲ置ク

- 一 大教正 一級
- 二 權大教正 二級
- 三 中教正 三級
- 四 權中教正 四級
- 五 少教正 五級
- 六 權少教正 六級
- 七 大講義 七級

八	權大講義	八	級
九	中講義	九	級
十	權中講義	十	級
十一	少講義	十一	級
十二	權少講義	十二	級
十三	訓導	十三	級
十四	權訓導	十四	級
十五	教師試補	十五	級

第二十一條 本教ノ教務ヲ輔翼スル者ノ名稱左ノ如シ
 一 自一等 教監 教師一級ヨリ至六等
 二 自一等 助教 六級迄ニ相當ス
 三 至八等 助教 教師七級ヨリ至八等迄ニ相當ス

第二十二條 本教翼賛ノ客員ヲ待遇スルニ左ノ名稱ヲ置キ管長之ヲ依屬ス
 一 贊 喪
 二 協 贊
 三 贊 助

第四章 職員教師選舉

第二十三條 管長ハ本教ニ適スル學術ヲ修メ德望アル者ニ就キ通常會ニ於テ三分ノ二以上ノ贊同ヲ得テ之ヲ撰ヒ辨理各本部長ノ連署ヲ以テ政府ノ認可ヲ乞フ
 管長ノ任期ハ滿六年トシ通常會々議ノ終ニ於テ之ヲ改撰ス但再撰スルコトヲ得
 管長ノ補欠ヲ要スルトキハ臨時通常會ヲ開キ第一項ノ手續ヲ執行ス此場合ニ於テモ管長ノ任期ハ滿六年トス

第二十四條 常在辨理ハ教師二級以上ノ者ヨリ諮詢會ニ於テ二名ヲ豫撰シ管長其一
 名ヲ命ス其任期ハ滿三年トシ諮詢會ノ終ニ於テ之ヲ改撰ス但再撰スルコトヲ得
 交代辨理ハ本部長中有効ノ者ヨリ諮詢會ニ於テ二名ヲ豫撰シ管長其一
 名ヲ命ス其任期ハ滿一年トシ諮詢會ノ終ニ於テ之ヲ改撰ス但再撰スルコトヲ得
 辨理ノ補欠ヲ要スルトキハ臨時諮詢會ヲ開キ第一項第二項ノ手續ヲ執行ス此場合
 ニ於テモ常在辨理ノ任期ハ滿三年交代辨理ノ任期ハ滿一年トス

第二十五條 本部長ハ左ニ列記スル者ノ中ヨリ諮詢會ニ於テ二名ヲ豫撰シ管長其一
 名ヲ命ス
 一 管長ニ從學シ現ニ教師六級以上ノ職ニアル者
 二 著書又ハ德望アリテ現ニ教師六級以上ノ職ニアル者
 三 十ヶ年以上本教ニ從事シ現ニ教師六級以上ノ職ニアル者

- 四 教師六級以上ニシテ現任本部長五名以上ノ推薦ニ係ル者
- 五 教師六級以上ニシテ欠員アル教區内ノ各教會長及六級以上ノ教師過半数ノ推薦ニ係ル者
- 六 教師六級以上ニシテ欠員アル教區内ノ本教翼賛員及講社正副社長過半数ノ推薦ニ係ル者
- 第二十六條 教會長ハ教師八級以上分教會長所屬教會長ハ教師十級以上ノ者ヨリ本部長之ヲ撰擧シ管長之ヲ命ス
- 第二十七條 教院ノ課長録事ハ管長之ヲ命シ本部各教會ノ課長録事ハ本部長之ヲ命ス
- 第二十八條 布教使ハ教師四級以上ノ者ヨリ管長之ヲ命ス
- 第二十九條 教師ハ左ニ掲ル科目ニ依リ宣教志望ノ者ニツキ隨時ニ合格試験ヲ行ヒ管長之ヲ命ス
 - 一 但管長ニ於テ行狀人ヲ率キルニ足リ且德望衆ヲ服スル者ト認ルトキハ試験ニヨラス之ヲ登用スルコトヲ得
 - 二 十五級ニ登用スヘキモノハ立教大意講義
 - 三 十四級十三級ハ祝詞作文

- 三 十二級十一級ハ古語拾遺講義作文
 - 四 十級九級ハ古事記上卷講義作文
 - 五 八級七級ハ日本紀神代卷講義作文
 - 六 六級五級四級三級ハ古事記日本紀講義作文
 - 第三十條 二級一級ノ教師ハ試験ニ依ラス三級四級ノ教師ヨリ諮詢會ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ命ス
 - 第三十一條 教監輔教ハ本教々務ヲ輔師スルモノニツキ管長之ヲ命ス
 - 第三十二條 講師ハ本教地方教導ニ從事シ教務ヲ輔ルモノニツキ本部長之ヲ命ス
 - 第三十三條 講社職員ハ講社員中人望資産アルモノニツキ正副社長ハ管長正副取締役世話係ハ本部長之ヲ命ス
- 第五章 職 權
- 第二十四條 管長ハ本教ノ全体ヲ統轄シ百般ノ機務ニツキ政府及教内ニ對シ其責ニ任ス
 - 第二十五條 管長ハ教院ノ職員本部長教會長分教會長所屬教會長教監輔教正副社長ヲ任免ス
- 但辨理本部長正權大教正ハ諮詢會ノ贊同ヲ得教會長分教會長所屬教會長及三級

以下ノ教師教監輔教正副社長ニシテ教院ニ屬スルモノハ辨理教區ニ屬スルモノ
 ハ其本部長ノ具申ニ依ルニ非ラサレハ之ヲ進退セス
 第三十六條 管長ハ緊急ノ事項アル場合ニ於テ本部長ヲ停職シ又ハ臨時本部長ヲ命
 シ置キ諮詢會ノ贊同ヲ得テ其處分ヲ爲ス
 第三十七條 管長ハ本教ニ功勞アル者ヲ褒賞シ及職員教師ヲ懲戒ス尤教院ニ屬スル
 モノハ辨理教區ニ屬スルモノハ本部長ノ具申ニヨル
 但金壹百圓以上若クハ之ニ該當スル賞與及六級以上ノ教師之ニ相當スル職員ノ
 免職ハ諮詢ノ贊同ヲ得
 第三十八條 管長ハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ會議ノ議決ヲ認否ス
 第三十九條 辨理ハ管長ヲ輔佐シ課長以下ヲ監督シ教務學務ヲ整理ス
 第四十條 課長ハ管長及辨理ノ命ヲ受ケ該課ノ事務ニ服ス録事ハ該課ノ事務ニ從事
 ス
 第四十一條 布教使ハ特ニ管長ノ命ヲ受各教區ヲ巡教監督ス
 第四十二條 教師ハ宣教結社ノ事ヲ掌ル
 第四十三條 本部長ハ管長ノ委任スル所ニ依リ其教區内ノ事務ヲ掌ル
 本部長ハ教會長分教會長所屬教會長ノ進退ヲ管長ニ具申ス本部長ハ課長録事講社

正副取締世話掛ヲ任免ス

但教會分教會所屬教會及講社職員ハ其教會長ノ請ニヨル
 第四十四條 教會長ハ本部長ノ委任スル所ニ依リ分教會長ハ教會長ノ委任スル所ニ
 依リ各其教區内ノ事務ヲ掌ル
 第四十五條 所屬教會長ハ所轄ノ事務ヲ掌ル
 第四十六條 講社長ハ社中ノ事務ヲ掌ル
 副社長ハ社長ヲ輔ケ社長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
 取締ハ講社中ノ庶務ヲ掌ル
 副取締ハ取締ヲ輔ク
 世話係ハ社中ノ雜務ニ從事ス
 第六章 會議
 第四十七條 會議ハ通常會諮詢會ノ二トス
 第四十八條 通常會ノ議員ハ各本部長ヲ以テ組織ス議長ハ毎回議員中ヨリ議員ノ投
 票ヲ以テ三名ヲ豫撰シ管長其一名ヲ命ス
 副議長ノ擢舉モ前項ノ例ニ依リ三名ヲ豫撰シ管長其一名ヲ命ス
 第四十九條 通常會ハ各教區ノ氣脉ヲ通シ布教ノ方法ヲ議スル爲メ滿三年ニ一回之

ヲ開ク若緊急ノ事項アルトキハ臨時會ヲ開クコトヲ得
通常會ノ開閉期日ハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ定ム管長欠員ノ場合ニ於テハ辨
理前條ノ手續ヲ執行ス

第五十條 會議ハ議員過半数出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス
議事ハ出席議員過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニヨル

第五十一條 左ニ掲グル事項ハ通常會ノ贊同ヲ得ヘシ
一 教規ノ修正
二 管長ノ撰定

三 教院本院ノ位置變換

四 教院本院ノ地所建物什器及基本財産管理ノ方法

五 前項ニ記載シタル物件ノ質入書入及賣却

第五十二條 議案ハ管長之ヲ提出ス

議員ハ議案ヲ提出スルコトヲ得教師六級以上ノ者ハ議員ノ紹介ヲ以テ請願書ヲ提出
スルコトヲ得

但管長ノ提出シタル議案ヲ議シタル後ニアラサレハ之ヲ議スルコトヲ得ス尤
モ管長提出ノ議案ニ附帶シタルモノハ此限ニアラス

第五十三條

諮詢員ハ本部長并ニ二級以上ノ教師ヲ以テ被撰人トシ通常會ニ於テ十
人ヲ豫撰シ管長其中ヨリ五人ヲ撰ヒ之ヲ命ス其任期ハ通常會ノ一期トシ會議ノ終
ニ於テ之ヲ改撰ス但再撰スルコトヲ得

通常會閉會ノ場合ニ於テ諮詢員ノ補欠ヲ要スルトキハ管長ハ通常會議員(各本部長)ヘ
通知シ書面ヲ以テ二人ノ補欠員ヲ投票セシメ投票多數ノ二名ニツキ其中一人ヲ
撰ヒ之ヲ命ス

交代辨理布教使ノ外教院内ノ職員ハ諮詢員ヲ兼ルコトヲ得ス

第五十四條 諮詢會ハ管長ノ諮詢ニ應シ又ハ管長ニ献替スル爲メ毎年一回之ヲ開ク
若シ緊急ヲ要スルトキハ臨時會ヲ開キ或ハ管長ヨリ書面ヲ發シ贊同ヲ求ムルコト
アルヘシ諮詢會ノ開閉期日ハ管長之ヲ定ム

管長欠員ノ場合ニ於テハ辨理前項ノ手續ヲ執行ス

第五十五條

左ニ掲グル事項ハ諮詢會ノ贊同ヲ得ヘシ
一 辨理本部長及教師二級以上ノ豫撰并解免

二 教區ノ分合

三 通常會ノ開閉及其議決ノ認否

四 大麻曆本授與金額ニ關スル事件

五 豫算案及決算報告

- 六 豫算外ノ支出豫算不足金ノ補充
- 七 本部長建議ノ採否
- 八 金額百圓以上又ハ之ニ該當スル賞與并教師六級以上之ニ相當スル職員ノ免黜

第七章 會計

第五十六條

教院各本部ノ經費ハ寄附金及内務省明治十六年神社甲第九百十五號達ニ基キ頒布スル所ノ大麻曆本ノ收納金ヲ以テ之ニ充

第五十七條

神宮司應ニ對スル大麻曆本製造費其他ノ納金ハ締約書ニ基キ教院之ヲ納メ教院ニ對スル保證金其他ノ納金ハ頒布規約ニ基キ各本部ヨリ之ヲ納ム

第五十八條

教院所有ノ財産ハ管長之ヲ管理ス

第五十九條

教院所有ノ地所建物什器及基本財産ハ教院所有財産臺帳ヲ製シ明瞭ニ之ヲ記載シ管長辨理會計課長連署捺印シ諮詢會通常會ノ檢閱ニ付ス諮詢會通常會閉會ノ場合ニ於テ臺帳ニ増減アルトキハ其旨ヲ附記シ管長辨理會計課長之ニ捺印シ次期ノ開會ヲ待テ檢閲セシム
臺帳ノ管理ハ會計課長ノ任トス

第六十條

教院所有ノ地所建物什器基本財産ノ買入書入又ハ賣却ハ通常會ノ贊同ヲ

得諮詢員ノ連署ヲ要ス

第六十一條

教院ノ職員及各本部長ノ俸給ハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ定ム

第六十二條

教院ノ歳入歳出ハ毎年二月會計課ニ於テ豫算案ヲ調製シ諮詢會ノ贊同ヲ得

第六十三條

教院歳入歳出ノ決算ハ諮詢會ノ調査ヲ經テ各本部ニ報告ス

第六十四條

豫算外ニ生シタル事項ニ付費用ヲ要シ又ハ豫算ニ不足アルトキハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ之ヲ支出ス

第六十五條

會計課長ハ一切ノ收入支出ヲ元簿ニ記載シ管長辨理ノ檢印ヲ受クヘシ會計課長ハ其收支ニ關スル帳簿證書其他ノ書類ヲ保存スルモノトス

第六十六條

諮詢員ハ臨時元簿證書其他收支ニ關スル書類ヲ點檢スルコトヲ得

第六十七條

本章ノ規定ニ違ヒ其他不正當ノ行為アルトキハ其行為者ヲシテ之ヲ取消サシメ又ハ損害ヲ賠償セシムル等總テ其責ニ任セシム

第六十八條

本部教會所分教會所所屬教會所ノ所有財産ハ其本部長各教會長之ヲ管理ス

第六十九條

本部教會所分教會所所屬教會所所有財産ノ管理處分法ハ前數條ニ照準シ本部ニ在テハ本部長之ヲ定メ管長ノ認可ヲ經各教會ニ在テハ其教會長之ヲ定メ

本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スヘシ
 第七十條 地所建物及ヒ什器ニシテ教院ニ屬スルモノハ教院ノ所有トシ本部ニ屬スルモノハ本部ノ所有トシ教會所分教會所所屬教會所ニ屬スルモノハ其教會ノ所有トシ各財産ヲ異ニスルヲ以テ其財産上互ニ責ヲ受ケサルモノトス

第八章 褒賞懲戒

- 第七十一條 職員教師信徒ニシテ左ノ諸項ニ該當スル者ヲ褒賞ス
- 一 教院本部及教會所分教會所所屬教會所等ヲ創立シ及建築シタル者
 - 二 教院本部及教會所分教會所所屬教會所等ノ永續方法ヲ立タル者
 - 三 滿十ヶ年以上教務ニ勉勵シタル者
 - 四 本教學ニ功勞アル者
 - 五 本教翼賛ノ功アル者
 - 六 信徒數百名ヲ結収シ教徒數百名ヲ改式セシメタル者
 - 七 學術品行業ニ踰ニ德行世ノ模範タルヘキ者
 - 八 說教講談ヲ以テ囚徒ヲ感化シ成績アル者
 - 九 著作ヲ以テ世教ヲ裨益シタル者
 - 十 教務ヲ贊ケ及ヒ慈善ノ行ヒ著シキ者

第七十二條 褒賞スル目左ノ如シ

- 一 年金授與 職員教師ニ限ル
- 二 表功章 職員教師ヨリ信徒ニ及フ
- 三 金圓授與 同上
- 四 物品授與 同上
- 五 賞狀 同上

第七十三條 教師及信徒ニシテ生前特別功勞アルモノハ贈職追祭追賞ヲ行フ

- 第七十四條 職員教師ニシテ左ノ諸項ニ觸ル、者ハ之ヲ懲戒ス
- 一 神明ニ對シ誠敬ノ念薄ク衆庶ノ不歸依ヲ招クモノ
 - 二 本教ノ教規管長ノ命令ヲ守ラサルモノ
 - 三 大麻曆本頒布規約其他ノ諸規則ニ違背シ約束ヲ履行セサルモノ
 - 四 三年以上ヲ經過シテ教義ノ實踐揚テサルモノ
 - 五 擅ニ任所ヲ離レ二週間以上管外ニ滞在スルモノ
 - 六 有給職員ニシテ管長允許ナク他ノ職務ニ關與シ俸給ヲ得ルモノ
 - 七 流言浮説ヲナシ教内ノ平和ヲ破リ若クハ人ヲ讒惹スルモノ
 - 八 品行不正ニシテ本教ノ体面ヲ汚スモノ

九 謂レナクシテ服制ヲ紊ルモノ
十 職務怠慢ニ依リ教義ヲ害スルモノ
第七十五條 懲戒スル目左ノ如シ

- 一 譴責
- 二 減俸
- 三 降級
- 四 停職
- 五 免職

第九章 服制

第七十六條 本教々師ノ服制ヲ定ムルコト左ノ如シ
一級二級教師ノ大禮服

- 有紋冠
- 菱綾單衣
- 同通常禮服
- 烏帽子
- 三級四級ノ大禮服
- 明衣若クハ齋服
- 差貫
- 笏
- 有紋差貫
- 扇

冠 明衣若クハ齋服 菱綾單衣
差貫 笏

同通常禮服

烏帽子

狩衣

紫色差袴

扇

五級六級ノ大禮服

明衣若クハ齋服

單衣

差袴

笏

冠

狩衣

淺黃色差袴

扇

同通常禮服

烏帽子

絹淨衣

單衣

差袴

扇

十三級十四級ノ大禮服

直垂

扇

折烏帽子

絹淨衣

單衣

差袴

扇

同通常禮服

折烏帽子

直垂

扇

十五級ノ大禮服

折烏帽子

布淨衣

單衣

布袴

扇

同通常禮服

折烏帽子

布直垂

扇

凶禮ノ節ハ冠ヲ卷纓ニシ單衣直垂トモ總テ無効白色ヲ用キ飾紐ハ鈍色扇ノ地紙ハ
鐵色トス

第十章 雜 則

第七十七條

教院ハ教務學務ノ實況ヲ各本部ニ通告シ本部ハ其教區内ノ實況ヲ教院
ニ報告ス

第七十八條

本教規ハ左ノ手續ニ依ルニアラサレハ之ヲ改正スルコトヲ得ス

一 管長ニ於テ教規中改正ヲ要スルコトアリト認ルトキハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ議
案ヲ通常會ニ付ス

二 本部長ニ於テ修正ヲ要スルコトアリト認ルトキハ

本部長三分ノ一以上連署シ諮詢會ノ贊同ヲ得テ通常會ニ建議ス

第七十九條 管長ハ本部若クハ教區内ニ紛議ヲ生シ其他整理ヲ要スル場合ニオイテ

諮詢會ノ贊同ヲ得テ事務擔任或ハ監督ヲ置クコトヲ得

第八十條

本部長ハ部下教務取扱上ニオイテ必要ヲ感スルトキハ本部若クハ教會所
分教會所所屬教會所ニ幹事ヲオクテ得幹事ハ本部長ノ撰舉ニ依リ管長之ヲ命ス

第八十一條

本教規ニ贊同ト稱スルハ特ニ規定アル外半數以上ノ同意ヲ云フ

第八十二條

本教規施行ニ關スル細則ハ諮詢會ノ贊同ヲ得テ管長之ヲ定ム

第十一章 附 則

第八十三條

本教規ニ規定アル職員ノ任期ハ本教規施行ノ日ヨリ起算ス

神宮教教師檢定條規

甲第四十四號

本年五月三十日御訓令ニ依リ別冊之通教師檢定條規相定度候間御認可被成下度此段奉願候也

神宮教事務取扱

明治廿八年八月廿二日

大教正 篠田時化雄 

大教正 藤岡好古 

内務大臣子爵野村 靖殿

割印

書面之趣認可ス

明治廿八年九月五日

内務大臣子爵野村 靖 

神宮教教師檢定條規

第一章 檢定

- 第一條 教規第三章第二十條ニ掲クル所ノ教師ノ分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格シタル者ニアラサレハ之ヲ授與セス
- 第二條 左項ノ一ニ該當スル者ハ教師タルヲ得ス
 - 一 瘋癲白痴盲聾瘖啞ノ者
 - 二 年齡滿二十歳以下ノ者
 - 三 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
 - 四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者及復權ヲ得テ一ケ年ヲ經過セサル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セサル者
 - 五 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケ改心ノ實ヲ表セサル者及改心ノ實ヲ表シニケ年ヲ經過セサル者
- 第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス
 - 第一種 試驗

第二種 認定

- 第四條 第一種ノ檢定ハ學業ノ試驗ヲ行フ者トス學業ノ試驗ヲ分ツコト左ノ如シ
 - 一 教義學科本試驗
 - 二 教義學科豫備試驗
 - 三 普通學科試驗
- 第五條 教義學科本試驗科目ハ教規第四章第二十九條一項乃至六項ノ規定ニ依ル
- 第六條 教義學科豫備試驗科目左ノ如シ

學科等級	講義		作文	作業	說教
	口述	筆記			
三四級	六國史	東鑑	探題宣命	鎮魂式	神道大意
五六級	三萬葉集	令義集	宣命體	神祭諸式	神道大意
七八級	古事記	日本紀	物語體	誕生式	立教大意
九十級	日本紀神代卷	職原抄	宣命體	解除式	立教大意
十一級	古事記上卷	祝詞式	祝詞二	葬祭式	立教大意
十三級	古語拾遺	古語拾遺	祝詞	神祭式	立教大意
十五級	古語拾遺	古語拾遺	祝詞	神祭式	○

第七條 普通學科試驗科目左ノ如シ

但此科目ニ合格シタル者ハ再度之ニ就キ試験スルコトナシ

- 一 修身
- 一 日本及萬國歷史
- 一 國語
- 一 漢文
- 一 數學
- 一 理科
- 一 日本及萬國地理
- 一 習字

第八條 新補試験ハ十三級以下トス但高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ六級以下判任官タリシ者又ハ判任官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ十級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ六級ノ教師ニ限リ檢定委員ハ豫シメ管長ノ許可ヲ得テ試験ヲ執行スルコトヲ要ス

第九條 昇級試験ハ越級ヲ許サス七級以下ハ現級滿二年三級以下六級以上ハ現級滿三年ヲ經過セサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十條 第二種ノ檢定ハ第十一條以下第十七條ノ場合ニ限リ檢定委員總長及檢定委員長之ヲ行ヒ意見ヲ具シテ管長ニ報告スルモノトス

第十一條 一級二級ノ教師ハ教規第四章第三十條ノ規定ニ依リ一級五名二級七名ノ定數ニ欠員アル場合ニ於テ之ヲ補ス

第十二條 神宮教々校卒業生ハ試験ニ依ラス八級以下ノ教師ニ補スルコトヲ得但最優等生ニ限リ七級ノ教師ニ補スルコトヲ得

第十三條 本教々校ノ學科程度ト同等以上ノ學校卒業生ハ其學校ノ證明書ヲ有スル者ニ限リ教義學科ノ一部及普通學科試験ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得但此場合ニ於テハ教校卒業生ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第十四條 尋常中學校卒業生又ハ其學科程度ト同等以上ノ學校卒業生ハ其學校ノ證明書ヲ有スル者ニ限リ普通學科試験ヲ免除スルコトヲ得

第十五條 教師ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ一級ヲ進ムルコトヲ得但二回以上連續スル場合ハ本條ニ據ルヲ得ス

- 一 現級滿三年以上勤務シ其功績顯著ナル敎院本院各本部各敎會錄事以上ノ者
- 二 教義ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタル者
- 三 現級滿四年以上勤務シ其功績顯著ナル者

第十六條 本教々師タリシ者ニシテ再ヒ本教ニ歸入セント欲スル者ハ其原級ニ該當スヘキ等級ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第十七條 神道他敎派ノ敎師タリシ者ニシテ本教ノ敎師タラント欲スルモノハ敎議學科ノ一部及普通學科試験ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

但此場合ニ於テハ原等級ヨリ一級以下ニ補スル者トス

第一章 試験

第十八條 試験ハ教院本院各本部ニ於テ隨時之ヲ行フ

但本條以外ノ場所ニ於テ試験ノ必要アルハ檢定委員總長及檢定委員長ヨリ申請シ特ニ管長ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 教院ニ於テ執行スル試験ハ檢定委員總長及檢定委員長之ヲ審案シ其成績ヲ管長ニ報告スルモノトス

第二十條 本院各本部ニ於テ執行スル試験ハ檢定委員長及檢定委員其口述及講讀行爲ニ關スルモノヲ審案シ其成績ヲ檢定委員總長ニ報告シ其筆答筆記ニ關スルモノハ之ヲ取纏メ直ニ檢定委員總長ニ送付スルモノトス

但數學習字ハ時宜ニ依リ檢定委員長ヲシテ之ヲ檢定セシムルコトヲ得

第二十一條 前條ノ場合ニ於テ檢定委員總長ハ檢定委員ト共ニ筆答筆記ヲ審案シ其

成績ヲ檢定委員長ヨリ報告シタル成績ト通算シ其成績ヲ管長ニ報告スルモノトス

第二十二條 試験問題ハ教院ニ於テハ檢定委員總長本院各本部ニ於テハ檢定委員長之ヲ定ム

第二十三條 試験ハ檢定委員三分ノ二以上出席スルニアラサレハ之ヲ施行セス

第二十四條 檢定試験ニ關スル一切ノ書類ハ教院本部各本院ニ保存スルモノトス

第三章 檢定委員

第二十五條 教院ニ檢定委員總長一名本院各本部内ニ檢定委員長各一名ヲ置キ教院本院各本部内ニ檢定委員各五名ヲ置ク

但數本内ニ一名ノ檢定委員長ヲ置クコトアルヘシ

第二十六條 檢定委員總長ハ二級以上ノ教師委員長ハ四級以上ノ教師ニ就キ管長ノ特撰ヲ以テ之ヲ命ス

第二十七條 檢定委員ハ六級以上ノ教師中ヨリ教院本院ハ委員總長各本部ハ委員長ノ撰擧ニ依リ管長之ヲ命ス

第二十八條 檢定委員總長及檢定委員長ハ管長ノ監督ヲ受ケ其受持部内檢定ニ關スル事務ヲ處理シ及疑義ヲ判決ス

第二十九條 檢定委員總長ハ四級以上教師ノ試験ト教院内ノ試験及本院各本部ニ於テ施行シタル筆答筆記ニ關スル試験及六級以上教師ノ認定ヲ爲シ檢定委員長ハ一本部若クハ數本内筆答筆記ニ係ルモノヲ除クノ外五級以下教師ノ試験及七級以下教師ノ認定ヲ爲ス

第二十條 第十八條但書ノ場合ニ於テハ管長ハ檢定委員長以下ヲ其地方ニ派遣シ檢

定試験ヲ行ハシム

三百十四

第四章 立會人

第三十一條 檢定委員試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監査スルカ爲メ管長ハ時宜ニ依リ四級以上ノ教師ヲ立會人ニ定ム

第三十二條 立會人ハ試験ニ臨監シ試験終了シタルトキハ直ニ試験ノ實況ヲ管長ニ報告スルモノトス

第五章 懲戒

第三十三條 檢定委員立會人敎院本院各本部職員及其他敎師ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩シ若クハ密示シタルモノハ其情狀ニ依リ職員及敎師ニアリテハ免職若クハ降級ニ處シ受験者ニアリテハ其試験ヲ無効トシ終身受験セシメサルモノトス

第三十四條 檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ實況ニ付虚偽ノ報告ヲ爲シタルハ前條ノ例ニ依ル

第六章 附則

第三十五條 敎規及其他ノ規則ニ依リ従前敎師ノ分限及等級ヲ授與セラレタルモノハ引續キ其職ニ在ルコトヲ得
但自今補命進退ハ此條規ニ依ル

第三十六條 敎令及其他ノ規則ニシテ此條規ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス

三百十五

大社教々規

大社教一般

本教教規別紙ノ通リ内務大臣ノ認可ヲ得候條遵奉確守可致此旨相達候事

神道大社教管長

從三位出雲國造 千家尊福

明治十七年第十九號御布達第四條之旨ニ因リ神道大社教規別紙之通相定候條至急御認可被下度此段相願候也

明治十七年七月二十四日

神道大社教管長

從三位男爵 千家 尊 福

內務大臣伯爵山縣有朋殿

印 割

書面之趣認可候事

明治十九年八月七日

內務大臣伯爵 山縣有朋

內務大臣之印

大社教教規

立教要旨

天日隅宮ニ鎮坐ス大國主神ノ經國治幽ノ神意ヲ奉戴遵守シ惟神ノ大道ヲ講明シテ斯民ノ天性ヲ全クセシメ上ハ國家ニ報ヒ下ハ其分ヲ盡サシムルヲ主要トス

第壹章 總 規

- 第一條 本教ハ幽冥主宰大國主神ヲ主神トシ天御中主神高皇產靈神神皇產靈神天照大御神產土神ヲ併セテ六神ヲ奉齋スル者トス
- 第二條 本教奉齋ノ神ヲ鎮祭シ說教及葬祭ヲ執行スル爲ニ祠宇ヲ設ク
- 第三條 出雲國神門郡杵築東村ニアル祠宇ヲ本祠トシ各地ニアルヲ分祠トス
- 第四條 本教々務ヲ總轄スル所ヲ稱シテ大社教本院トス
- 第五條 一府縣或ハ一國內ノ教務ヲ管掌スル所ヲ稱シテ大社教分院トス
- 第六條 一區或ハ數町内ノ教徒ヲ會合シテ說教ヲ執行シ并ニ教會ヲ管理スル所ヲ稱シテ教會所トス
- 第七條 本教々義及教務ヲ總管スル者ヲ稱シテ管長トス
- 第八條 本教宣布ニ從事スル者ヲ稱シテ教導職トス

第九條 本教ヲ協賛スルモノヲ稱シテ協賛員トス
 第十條 教會講社ノ事務ヲ主トル者ヲ稱シテ講社役員トス
 第十一條 教導職及協賛員講社役員ハ管長之ヲ命ス
 第十二條 本教々會ニ入ル者ヲ稱シテ教徒トス
 第十三條 教會結社式執行ハ管長ノ允可シタル者ニ限ル
 第十四條 祈禱式禁厭式ハ管長之ヲ傳授シ證狀ヲ與フル者トス
 第十五條 教徒ニ授與スル神符ハ出雲大社ニ請求シテ本院ヨリ下符ス故ニ各分院教會所ニ於テ製造スルヲ得ス

第二章 本院

第十六條 本院ハ本祠内ニ設ケ學寮ヲ具備スル者トス
 第十七條 本院出張所ヲ東京麻布區材木町三十九番地東京分祠内ニ置ケ
 第十八條 全國ヲ二分シテ西部ハ本院之ヲ直管シ東部ハ東京出張所之ヲ管轄ス
 第十九條 本院及東京出張所ニ於テ管長不在ノ時ハ副管長ヲシテ事務代理セシム
 第二十條 本院ニ左ノ職員ヲ置キ教務ヲ處理ス
 但總監ハ副管長ト待遇ヲ同ウス
 總監 二員 幹事長 一員

幹事 若干 幹事補 若干
 屬員 若干

第廿一條 總監ハ旨ヲ管長ニ承ケ幹事長以下職員ヲ統率シテ教務ヲ總監ス
 第廿二條 幹事長ハ總監ヲ助ケテ教務ヲ監督ス總監事故アルトキハ代理スルヲ得
 第廿三條 幹事ハ總監ノ指揮ニ因リ各擔任ノ課務ヲ整理ス
 第廿四條 屬員ハ各課ノ主務ニ從事ス
 第廿五條 東京出張所ニ左ノ職員ヲ置キ教務ヲ處理ス
 但副管長現任ノ時ハ所長ヲ置ズシテ副管長其職務ヲ總掌ス
 所長 一員 幹事長 一員
 幹事 若干 幹事補 若干
 屬員 若干
 第廿六條 所長ハ旨ヲ管長ニ承ケ幹事長以下職員ヲ統率シテ教務ヲ總掌ス
 第廿七條 幹事長ハ所長ヲ助ケテ教務ヲ監督ス所長事故アル時ハ代理スルヲ得
 第廿八條 幹事ハ所長ノ指揮ニ因リ各擔任ノ課務ヲ整理ス
 第廿九條 屬員ハ各課ノ主務ニ從事ス
 第卅條 本院及東京出張所職員ハ管長之ヲ命ス

第三章 分院

第卅一條 分院ハ各地ニ設ケ學寮ヲ具備スル者トス
第卅二條 分院ノ建設ハ本院ニ於テ審査シ其願書ニ管長連署シ地方官廳ノ認可ヲ得
テ開設スル者トス

但移轉廢合モ此手續ニ因ル

第卅三條 分院ハ所在ノ地名ニ因テ大社教某分院ト稱ス
第卅四條 分院ニ左ノ職員ヲ置キ教務ヲ處理ス

院長 一員
理事 若干
副長 一員
理事補 若干
屬員 若干

第卅五條 院長ハ管長ノ示命範圍内ニ於テ教區内ノ教務ヲ管理ス

第卅六條 副長ハ掌院長ニ同シ院長事故アル時ハ代理スルヲ得

第卅七條 理事理事補屬員ハ院長ノ指揮ニ因リ各課ノ主務ニ從事ス

第卅八條 分院正副長ハ管長ノ意見ヲ以テ之ヲ命シ理事理事補屬員ハ院長ノ具狀ニ
因リ管長之ヲ命ス

第卅九條 分院長ハ所長ノ教務ニ付キ本院ニ對シ其責ニ任ス

第四章 教會所

第四十條 教會所ノ建設ハ本院ニ於テ審査シ其願書ニ管長連署シ地方官廳ノ認可ヲ
得テ開設スル者トス

但移轉廢合モ此手續ニ因ル

第四十一條 教會所ハ所在ノ地名ニ依テ大社教某教會所ト稱ス

第四十二條 教會所ニ左ノ職員ヲ置キ教會ノ事務ヲ處理ス

所長 一員
副長 一員
理事 若干
屬員 若干

第四十三條 所長以下職掌ハ分院職員ニ同シ

第四十四條 教會所正副長ハ分書内教導職及協賛員講社役員建設本願者ノ公撰ニ因
リ分院長本院ニ具狀シ管長之ヲ命ス理事屬員ハ所長ノ具狀ニ因リ分院長之ヲ命ス
但本院分院長ノ意見アル時ハ前記ノ者ハ諮問ノ上命スルヲアリ

第四十五條 教會所長ハ所管ノ事務ニ付本院ニ對シ其責ニ任ス

第五章 管長

第四十六條 管長ハ出雲國造正統ヲ以テ襲職ス

第四十七條 管長讓職ハ管長ノ特撰ヲ以テ主務大臣ニ具申シ認可ヲ得テ讓狀ヲ與フ

ル者トス

但管長亡シ後任未決ノ時ハ副管長及大教正連署ノ上後任ノ者ヲ主務大臣ニ具申シ認可ヲ受クル者トス

第四十八條 管長ハ本教々義及教務上ニ付政府ニ對シ其責ニ任ス

第四十九條 副管長ハ管長其器ト認ムル者ヲ特撰シ辭令ヲ與フル者トス

第五十條 副管長ハ管長ヲ補翼シ管長事故アルトキハ事務代理スルヲ得

第六章 教導職

第五十一條

教導職ヲ分テ十五級トシ其名稱等級ハ本教職員表ノ如シ

第五十二條 教導職ハ試験褒賞懲戒ノ課目ニ因リ進退ス

但品行人望ヲ以テ特撰ニ中ル者ハ此限ニアラス

第五十三條 教導職々務上ニ係ル上進下達及取締ノ爲一郡區内ニ主事ヲ置ク

但分院教會所未設ノ地ニ限リ之ヲ置ク

第五十四條 主事ハ分畫内教導職ノ公撰ヲ本院ニ具狀シ管長之ヲ命シ

第五十五條 主事ハ分畫内教導職取締上ニ付本院ニ對シ其責ニ任ス

第七章 協贊員

第五十六條 協贊員ヲ分テ十五級トシ其名稱等級ハ本廳職員表ノ如シ

第五十七條 協贊員ハ教導職ヲ獎勵補助シ教義擴張ノ事ヲ務ル者トス

第八章 役員

第五十八條 講社役員ヲ分テ九等トシ其名稱等級ハ本教職員表ノ如シ

第五十九條 講社役員ハ所在地ノ講社員ヲ監督調和シ且社員ヲ増殖シ專ラ教會ノ隆盛ヲ規畫スル者トス

第九章 試験

第六十條 教導職ヲ試験スル爲ニ神教撮要二十題ヲ設ク

一 造化之神徳

二 經國之功德

三 天地分掌

四 幽顯分任

五 治幽之思頼

六 國跡ノ尊嚴

七 神道之起原

八 祭祀之典

九 祈禱之所以

十 大祓之功用

十一 追祭之禮

十二 神魂之命脈

十三 神魂之靈徳

十四 神魂氣之作用

十五 鎮魂之要旨

十六 神魂之歸着

十七 蒼生之行務

十八 報本反始之義務

十九人倫之大義

二十教會之目的

第十章

褒

賞

第六十一條

本教ニ功勞アル者ニハ其厚薄ニ因リ等差ヲ別チテ褒賞ヲ行フ者トス

第十一章

懲

戒

第六十二條

本教ノ規律ニ背ク者ヘハ其輕重ニ因リ免職又ハ謹慎ノ二法ヲ以テ懲戒スル者トス

寺級

十一級

十二級

十三級

十四級

十五級

十六級

十七級

十八級

大社

教導職

名 等	飛	一級	二級	三級
		副 管 長	管 長	長
		教 母 職 大 教 正	大 教 正	中 教 正
		協 賛 員 大 參 教 權 大 參 教 中 參 教		
		講 社 役 員		

管
長
教
育
及
教
務
一
切
ヲ
總
理
ス

參
教
務
ヲ
協
贊
ス
大
講
會

講
生
會
話
ノ
コ
ト
ヲ
掌
ル
但
一
講
社
ニ
三
名
マ
テ
置
ク

本院及南

名 等	稱	副 管 長	一級	二級
		總 監	幹 事	幹 事
		東 京 出 張 所	所	幹 長
		分 院		
		教 會 所		

總
監
旨
ヲ
管
長
ニ
承
ケ
幹
事
長
已
下
職
員
ヲ
統
率
シ
テ
教
務
ヲ
總
監
ス
東
京
出
張

明治十九年十月改正

大社教々導職檢定條規

本教々導職檢定條規別冊ノ通制定致候間御認可被下度此段願上候也
明治廿八年九月二十日

大社教管長 千家尊愛

内務大臣子爵 野村靖殿

(指令朱書)

印割

書面願ノ趣認可ス

明治廿八年十二月廿七日

内務大臣子爵 野村 靖 印

大社教々導職檢定條規

第一章 檢定

第壹條 教規第六章第五拾壹條ニ掲グル所ノ教導職ハ總テ此條規ニ依リ管長之ヲ補ス

第貳條 左ノ一項ニ該當スル者ハ教導職タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白疾聲啞ノ者
- 二 年齡二十歳未滿ノ者
- 三 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
- 四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セス又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘザル者
- 五 法律ニ觸レサルモ品行不正ナル證據アル者
- 六 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職處分ヲ受ケタル者ニシテ改心實ヲ表スルモ二ケ年ヲ經過セザル者

第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス

第壹種 試驗

第貳種 認定

第四條 第壹種ノ試驗ハ第五條乃至第拾壹條ニ於テ學業ノ試驗ヲ行フモノトス學業ノ試験ヲ分ツコト左ノ如シ

壹 教義學科試験

貳 普通學科試験

第五條 教義學科試験ハ之ヲ七等ニ分クニ等以上ヲ高等トシ三等以下ヲ尋常トス其科目左ノ如シ

學科	等級	講義 口述或ハ 筆記	作文	說教	對問 口述或ハ 筆記	作業
日本書記	壹等	萬葉集	古文二題	神道ノ大意	神教撮要ノ 中法三題	鎮魂式
日本書記	貳等	古事記 中下卷	古文二題	神道ノ大意	神教撮要ノ 中法二題	神祭諸式
古事記上卷 日本紀宣	參等	續日本紀 原抄	中古文二題	神道ノ大意	神教撮要ノ 中法二題	誕生式 婚禮式
古事記上卷 法式	四等	竊記 詞法	中古文二題	立教ノ大意	神教撮要ノ 中法三題	葬祭式
古語拾遺 大室典範	五等	大室典範	中古文一題	立教ノ大意	神教撮要ノ 中二題	神祭式
古語拾遺 大要	六等	大要	通俗文二題	立教ノ大意	神教撮要ノ 中二題	祈念式
本教神德大意 大神問答	七等	大神問答	通俗文一題	立教ノ大意	神教撮要ノ 中一題	解除式

第六條 普通學科試驗科目ハ左ノ如シ

但シ此試驗ニ及第シタル者ハ再度之ニ就キ試驗スルコトナシ

- 一 修身
- 一 國文 讀誦
- 一 漢文 講讀
- 一 日本及萬國歷史 筆答
- 一 日本及萬國地理 筆答
- 一 哲學
- 一 數學 筆答
- 一 理科 筆答
- 一 習字

第七條 試驗ノ點數ハ一科目全點ヲ百點トシ平均六十點以上ヲ得タルモノヲ及第ト

シ一科目四十點未滿ナル者ハ落第トス而シテ平均八十點以上ヲ甲トシ其以下ヲ乙トス甲ヲ正ニ配シ乙ヲ權ニ配ス則チ左表ノ如シ

但七等ハ甲乙ヲ分タス

等級	區別	甲點ヲ得タル者	乙點ヲ得タル者
一 等	一	中教正	權中教正
二 等	二	少教正	權少教正
三 等	三	大講義	權大講義
四 等	四	中講義	權中講義
五 等	五	少講義	權少講義
六 等	六	訓導	權訓導
七 等	七	教導職試補	

第八條 新補試驗ハ六等以下トス

但新補試驗ヲ受タル後滿二年ヲ經過シタル者ニシテ適當ノ學力ヲ有スル者ハ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長檢定委員長ノ具申ニ依リ管長ハ特ニ四等以下ノ試驗ヲ許可スルコトアル可シ

第九條 昇級試驗ハ三等以下ハ現級滿二年壹等貳等ハ現級滿三年ヲ經過セザレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十條 昇級試驗ハ越級ヲ許サスト雖モ檢定委員總長檢定委員副總長檢定委員長ノ銓衡ヲ經テ管長ハ特ニ之ヲ許可スルコトアル可シ

但第八條但書ノ場合ヲ除ク外ハ六等五等二等ハ超越ヲ許サズ

第十一條 試驗ニ落第シタル者ハ滿一年ヲ經過セザレバ再試驗ヲ許サズ

第十二條 第二種ノ認定ハ第十三條ノ規定ハ管長之ヲ行ヒ第十四條乃至第十七條ノ規定ハ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長檢定委員長及檢定委員三名以上ニ於テ之ヲ行ヒ管長ニ具申スルモノトス

第十三條 正權大教正ハ試験ヲ要セス大教正七名權大教正二十名ヲ限リ管長之ヲ補命ス

第十四條 左ノ各種ハ教義學科試験又ハ普通學科試験ノ全部ヲ免除ス
壹種

- 一 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニアリシ者
 - 二 神宮皇學館本科卒業生及皇典講究所學正タル者
- 以上ハ教義學科ノ試験ヲ免除シ權少教正以下ニ補命ス
貳種
- 一 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者
- 以上ハ普通學科試験ヲ免除シ權少教正以下ニ補命ス
三種
- 一 神宮々掌以上官國幣社主典以上ノ職ニアリシ者
 - 二 神宮皇學館專科卒業生及皇典講究所五等司業以上ノ者

- 三 滿十年以上府縣社以下ノ神職タリシ者
 - 四 教義ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル功績アル者
- 以上ハ教義學科試験ヲ免除シ少講義以下ニ補命ス
四種
- 一 尋常師範學校及尋常中學校以上公立學校ヲ卒業セシ者
 - 二 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者
- 以上ハ普通學科試験ヲ免除シ少講義以下ニ補命ス
五種
- 一 滿十年以上本教々徒ニシテ教義ニ熱心シ功績顯著ナル者
- 以上ハ教義學科試験ヲ免除シ訓導以下ニ補命ス
第十五條 左ノ各項ニ該當スル者ハ試験ノ一部又ハ全部ヲ免除シ其原級ヨリ一級以下ニ補命ス
- 但原級ニ相當シタル試験ヲ受クルコトヲ得
- 一 本教々導職タリシ者ニシテ復職スル者
 - 二 明治十七年八月十一日以前教導職タリシ者
 - 三 神教他教派ヨリ轉屬スル者

第十六條 本院又ハ各分院ノ學寮ニ於テ其學科ヲ卒業シタル者ハ試驗ニ依ラズシテ左ノ各級ニ補スルコトヲ得

但最優等生ニ限リ一級ヲ進ムルコトヲ得

一 本院學寮卒業生權少教正以下

一 分院學寮卒業生權大講義以下

第十七條 本院學寮又ハ分院學寮ノ學科程度ト同等以上ノ學校卒業生ニシテ其學校

ノ證明書ヲ有スル者ニ限リ三等又ハ四等以下ノ試驗ヲ受クルコトヲ得

但教義學科試驗ノ一部及普通學科試驗ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十八條 左ノ一項ニ該當スル者ハ試驗ニ依ラズシテ一級ヲ進ムルコトヲ得

但權訓導權少講義權少教正ニ昇級スル者ハ必ス試驗ヲ受クルヲ要ス

一 教義ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタル者

二 現級滿三年以上勳績シ本院又ハ東京出張所各分院教會所及直轄教會ノ理事者

ニシテ功績顯著ナル權少教正以上ノ者

三 現級滿二年以上勳績シ本院又ハ東京出張所各分院教會所及直轄教會ノ理事者

ニシテ功績顯著ナル大講義以下ノ者

四 現級滿四年以上勳績シ功績顯著ナル權少教正以上ノ者

五 現級滿三年以上勳績シ功績顯著ナル大講義以下ノ者

第二章 試驗手續

第十九條 高等試驗ハ本院及東京出張所ニ於テ隨時之ヲ行ヒ尋常試驗ハ本院及東京

出張所又ハ分院ニ於テ隨時之ヲ行フ

但本條外ノ場所ニ於テ尋常試驗ヲ執行スルノ必要アルトキハ檢定委員總長又ハ

檢定委員副總長檢定委員長ヨリ申請シ特ニ官長ノ許可ヲ受ク可シ

第二十條 高等試驗ハ其筆答以外ノ書類ヲ檢定委員長及檢定委員ニ於テ精査シ筆答

ニ關スル書類ハ其儘之ヲ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長ニ報告シ檢定委員總長

又ハ檢定委員副總長ハ之ヲ審案シ得點ヲ合算シテ其成績ヲ管長ニ具申スルモノト

ス

第二十一條 尋常試驗ハ其筆答以外ノ書類ヲ檢定委員ニ於テ精査シ筆答ニ關スル書

類ハ其儘之ヲ檢定委員長ニ報告シ檢定委員長ハ之ヲ審案シ得點ヲ合算シテ其成績

ヲ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長ノ檢閲ヲ經テ管長ニ具申スルモノトス

第二十二條 試驗問題ハ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長之ヲ定メ管長ノ認可ヲ受

ク可シ

第二十三條 高等試驗ハ檢定委員總長又ハ檢定委員副總長及ヒ檢定委員三名以上尋

常試験ハ検定委員長及検定委員三名以上出席スルニアラサレハ行フコトヲ得ス
第二十四條 試験ニ關スル一切ノ書類ハ本院又ハ東京出張所ニ保存スルモノトス

第三章 検定委員

第二十五條 検定委員ハ検定委員長検定委員副總長各壹名検定委員長貳名検定委員拾五名ヲ定員トシ本院及ヒ東京出張所ニ置ク
但分院又ハ其他ノ場所ニ於テ試験ヲ行フトキハ臨時検定委員長壹名及ヒ検定委員三名以上ヲ選定スルコトアル可シ

第二十六條 検定委員總長檢定委員副總長ハ權大教正以上檢定委員長ハ權中教正以上檢定委員ハ權少教正以上ノ教導職ニ就キ管長ノ特選ヲ以テ之ヲ命ス
但檢定委員ハ博士學士ノ稱號アル本教協贊員又ハ學識アル權大參教以上ノ協贊員ヘ囑托スルコトアル可シ

第二十七條 檢定委員總長檢定委員副總長檢定委員長檢定委員等ノ任期ハ凡テ滿三年トス

第四章 立會人

第二十八條 檢定試験實地監査ノ爲メ管長ハ教正以上ノ教導職ヲ立會人ハシム

第二十九條 立會人ハ試験ニ臨監シ試験終了シタルトキハ直チニ試験ノ實況ヲ管長

ニ具申スルモノトス

第五章 懲 戒

第二十條 檢定委員ニシテ試験問題ヲ漏洩シタルモノハ其情狀ニ依リ免職若クハ降級ニ處シ受験者ニアリテハ其試験ヲ無効トス

第二十一條 檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ實況ニ付虚偽ノ具申ヲ爲シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

第六章 附 則

第二十二條 本條規實施前ヨリ在職ノ者ハ引續キ其職ニアルコトヲ得

第二十三條 本院及分院ノ學寮ハ目下未設ニ付之ニ係ル各規定ハ追テ内務大臣ノ認可ヲ得テ實施ス可シ

第二十四條 從來ノ令達及其他ノ規則ニシテ此條規ニ牴觸スルモノハ總テ無効トス
第二十五條 本條規ハ明治廿九年一月一日ヨリ施行ス

神道扶桑教々規

別冊ノ通教規立定仕度候條御差支無之候ハ、御認可有之度此段相願候也

明治十九年八月九日

扶桑教事務取扱 田中頼庸 印

内務大臣 山縣有朋殿

(指令朱書)

割 印

書面之趣認可候事

明治十九年八月十九日

内務大臣伯爵 山縣有朋

印

神道扶桑教々規

扶桑教ハ造化參神ノ無量無邊ノ神徳ヲ尊崇シ惟神ノ大道ヲ修メ本教ヲ宣布スルヲ主トス

第一章

第一條 本教ハ富士山ニ據リ興教セシテ以テ神道扶桑教ト稱ス

第二條 本教ノ主神

高皇產靈神

天之御中主神

神皇產靈神

合殿

天照大御神

月夜見神

彥火邇々杵命

木花開耶姬命

第三條 皇國ノ禮典ヲ脩明シ神事ハ歷朝ノ儀範ニ則リ冠婚喪祭等ハ本朝禮式ヲ執行

ス

第四條 天神地祇ヲ崇祀シ幽顯死生ノ理ヲ申明ス

第五條 教師ハ總テ教導職ト稱シ名稱等級ハ第 條ニ掲ク

第六條 教師ノ外信徒結集ノ爲講長傳教子修行者周旋方等ノ名稱ヲ置ク

第七條 教導職補任ノ際ハ必ス三條ノ教憲ヲ授與ス

第八條 大小教區取締ハ太教廳詰員臨時派出シ之ヲ監督ス

第九條 信徒ノ請求ニ應シ鑑札ヲ授與ス

第十條 說教ヲ分ケテ定期臨時ノ式種トス

第二章 名稱

第十一條 本教ノ主神ヲ鎮祭スル所ヲ東京芝區神明町ニ置テ之ヲ稱シテ扶桑教太祠ト稱ス

ト稱ス

第十二條 本教ノ教務ヲ總掌スル所ヲ太祠ノ境内ニ置キ之ヲ稱シテ扶桑教太教廳ト稱ス

稱ス

第十三條 教務ノ都合ニ依リ各地ニ太教廳出張所ヲ置ク

第十四條 信徒教徒ノ便宜ニヨリ各地ニ教會講社ノ本部ヲ置ク

第十五條 教區ハ祠宇ノ統轄部内ヲ大教區トシ教會所部内ヲ小教區トス

第十六條 大小教區内ノ布教取締ハ祠宇主祠宇掌殿及ヒ本部長教會所長之ヲ擔任ス
 第十七條 各地ニ信徒ヲ結集シ之ヲ稱シテ某名講社トス
 第十八條 教師及教務員等ノ名稱等級ヲ定ムル事左ノ如シ

員務教	稱名師教	級等
長管	主教大	等特
元參	正教大	等一
事諫	正教大	等二
長務事	正教中	等三
督監	正教中	等四
查監	正教少	等五
殿掌	正教少	等六
長部本	事錄大	等七
長所會教	事錄大	等八
長張應大	事錄中	等九
長所出教	事錄中	等十
	事錄少	等十一
	事錄少	等二十
	衛殿	等三十
	掌廳	等四十
		外等

第三章 職制權限

第十九條 大教正以下ノ教師ヲ統轄スルモノヲ管長ト稱ス
 第二十條 管長ハ大教主ニシテ教務一切ヲ總理シ上下ニ對シ其實ニ任ス
 一 神事教旨禮節ヲ傳授ス
 一 教師及ヒ應員祠宇主祠宇掌殿本部長教會所長等ノ役員ヲ進退シ教會講社ノ名稱ヲ許否ス
 第二十一條 教師ハ試補以上總テ神事布教ノ諸務ヲ分掌ス
 一 神事ヲ脩メ信徒ヲ教導ス
 一 太占及禁厭鎮火祭等ヲ執行ス
 一 祭禮冠婚及喪祭等ノ諸式ヲ奉行ス
 第二十二條 各祠宇掌殿ハ教正以上ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
 第二十三條 各祠宇主祠宇掌殿及本部長教會所長ハ部下講社ノ諸務ヲ整理ス
 第四章 祭典
 第二十四條 祭典ヲ分テ大小臨時祭ノ二種トス
 第二十五條 扶桑教太祠ノ大祭ハ春秋兩季トシ小祭ハ例月十二日トス
 第二十六條 本曆掲戴ノ大祭祝日ハ本祠及各祠ニ於テ實所ヲ遙拜ス

第廿七條 各祠宇祭典ハ地方ノ適宜ニ任スト雖モ管長ノ認可ヲ得テ然ル後ニ施行ス

第廿八條 教祖ノ忌日ハ本祠及ヒ各祠ニ於テ神籙ヲ設ケ其祭典ヲ行フ

第五章 進退

第廿九條 管長ハ本教ノ締盟ニ依リ世襲トナシ太教應詔正權大教正連署シ出願認可ヲ請フベシ

一 管長未成年ナルハ管長ハ教務ヲ處理セシムルカ爲ニ參元諫事事務長ニ諮問シ正權大教正中ヨリ教務總理一名若クハ二名ヲ定メ前項ノ手續ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ請フベシ

第三十條 各祠宇掌殿ノ世襲ハ功勞ニ依リ管長之ヲ許ス

但シ世襲ヲ許スルハ之ヲ祠宇主トス

第卅一條 世襲ノ掌殿ト雖モ本教ニ信義ヲ欠ク者ハ管長其職ヲ免ス

第卅二條 教師ハ試験或ハ管長ノ特選ニ依リ之ヲ進退ス

一 神事學術優等ニシテ事理ニ通曉スル者

一 品行方正ニシテ人ノ師表タルヘキ者

一 德望及布教ニ功勞アル者

一 試補ハ教義篤志ニシテ後來望アル者

第卅三條 本教ノ教職ハ假令功勞學術アリト雖モ必ス試補ヨリ昇等スル者トス但特別者ハ此限ニアラス

第六章 施設

第卅四條 太教廳出張所教會所說教所設置ハ其管轄廳ヘ請願ス

第卅五條 教會所ノ名稱ハ管長之ヲ允許ス

第卅六條 教會所說教所ノ廢合ハ其都度管轄廳ヘ届出ルモノトス

第七章 服制

第卅七條 管長教師ノ禮服ハ齋服狩衣直垂淨衣トス

一 教正以上齋服狩衣直垂淨衣

一 正權大講義狩衣直垂淨衣

一 中講義以下權訓導直垂淨衣

一 試補 直垂

第八章 雜則

第卅八條 信徒以上ノ履歷名簿ハ扶桑教太祠ノ掌殿ヲシテ之ヲ掌ラシメ其姓名ヲ不

朽ニ存セシム

第卅九條 信徒タラン事ヲ願フモノハ必ス神誓セシメ教誡及ヒ神符ヲ授與シ教旨ヲ

体認セシム

第四十條 授産ノ方法ヲ設ケ山海ノ遺利ヲ興シ農漁ノ裨補ヲ謀ル

第四十一條 衛生ノ方法ヲ講習シ及行旅ノ便益ヲ謀ル

第四十二條 教費ハ教師及ヒ信徒ヨリ之ヲ徴收ス

第四十三條 自他教派ノ紛紊ヲ未萌ニ鎮定シ邦家ノ安寧ヲ圖ル

第四十四條 教規ハ勿論管長ノ命令ニ違犯スル者ハ懲戒規約ヲ以テ懲戒ス

神道扶桑教懲戒規約

第一章 大綱

第一條 本教ニ於テ懲戒スル方法ヲ別テ三種トス

一 重懲戒

一 輕懲戒

一 諭戒

第二條 重懲戒ハ統轄者ヨリ管長ヘ具申ス

第三條 輕懲戒ハ統轄者之ヲ決行シテ後ニ管長ニ具申ス

第四條 諭戒ハ教會長之ヲ處置ス

第五條 重懲戒輕懲戒トモニ懲戒スヘキ者ハ其行踪實證ヲ得本教々會並ニ出張所ニ

於テ審査ヲ遂ケ其手續證據書類ニ意見書ヲ添ヘ教會長若クハ副長並ニ係リ主任ノ者總テ二名以上連署シ統轄者ヘ具申ス

但本文ノ手續ヲ爲サ、ル者ハ其功ヲ有セス

第六條 懲戒ニ依ルニ非ラスシテ免職スヘキ者ハ統轄者ヨリ旨ヲ諭シ本人ヨリ免職願ヲ出サシム若シ其旨ニ遵ハサル者ハ統轄者ヨリ直ニ管長ニ具申ス

第七條 懲戒ニ依リ免職スル者ハ滿二年或ハ三年ヲ經テ改良ノ實効アルニ非レハ再補スルコトヲ許サス

第八條 謹慎ヲ命セラレタル者ハ滿一年間昇級ヲ許サス

補スルコトヲ許サス

第九條 重懲戒ヲ免職トス

第十條 輕懲戒ヲ分テ謹慎譴戒トス

第十一條 重懲戒免職ニ係ル者アルハ各教管長ヘモ之ヲ通牒ス

第十二條 謹慎ハ五日以上十五日以下統轄者ヨリ書面ヲ以テ申付

第十三條 譴戒ハ其事由ヲ示シ譴戒書ヲ付シテ將來ヲ戒シム

第十四條 諭戒ハ過失ヲ指摘シ悔悟ノ謝狀ヲ出サシム

第三章 違例

第三章 違例

第十五條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ重懲戒トス

- 一 管長ノ命令ヲ奉セサル者
- 一本教ノ規約條例ヲ遵守セサル者
- 一 正權大教正及有位ノ教正ニ對シ不敬不遜ノ舉動ヲ爲ス者
- 一 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又祈禱符呪等ニ托シ人ヲ惑シ私利ヲ計ル者
- 一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ蠱惑シ風俗ヲ紊ル者
- 一 太教廳及ヒ諸教會講社ノ名稱ヲ以テ詐術ヲ爲ス者
- 一 不品行ヲ以テ譏ヲ來シ教職ノ体面ヲ汚ス者
- 一 身代限リノ處分ヲ受ケタル者
- 一 謹慎ヲ受猶素行修ラサル者
- 一 教義用若クハ職務ヲ名トシ伺テ經スシテ出張スル者
- 一 當器ノ教職ヲ故意ニ昇級具申セサル者

第四章 違 例

第十六條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ輕懲戒トシ其情狀ヲ酌量シ其重ヲ謹慎トシ其輕ヲ
聽戒トス

- 一 太教廳出張所長ノ命令ニ違ハサル者

- 一 疎虞懈怠ニシテ本教ノ規約條例ニ違フ者
- 一 管長ノ允許ヲ得スシテ教規類似ノ者ヲ部内ニ施設シ或ハ鑑札辭令書等ヲ信者ニ授與スル者

- 一 凡違書ヲ受テ時日ヲ稽緩差失シ事ニ害アル者
- 一本部教會長或ハ教正以上ニ對シ不敬不遜ノ舉動ヲ爲ス者
- 一同職ニ對シ謾罵ヲ爲ス者
- 一 教義禮式ヲ違失スル者
- 一 所轄教會ノ認可ヲ得スシテ忘リニ所轄ヲ轉換スル者
- 一本教諸教會講社ノ公選投票ヲ増減スル者
- 一 祭服ノ制ヲ紊タル者
- 一 諭戒ヲ受猶悔悟セサル者

第五章

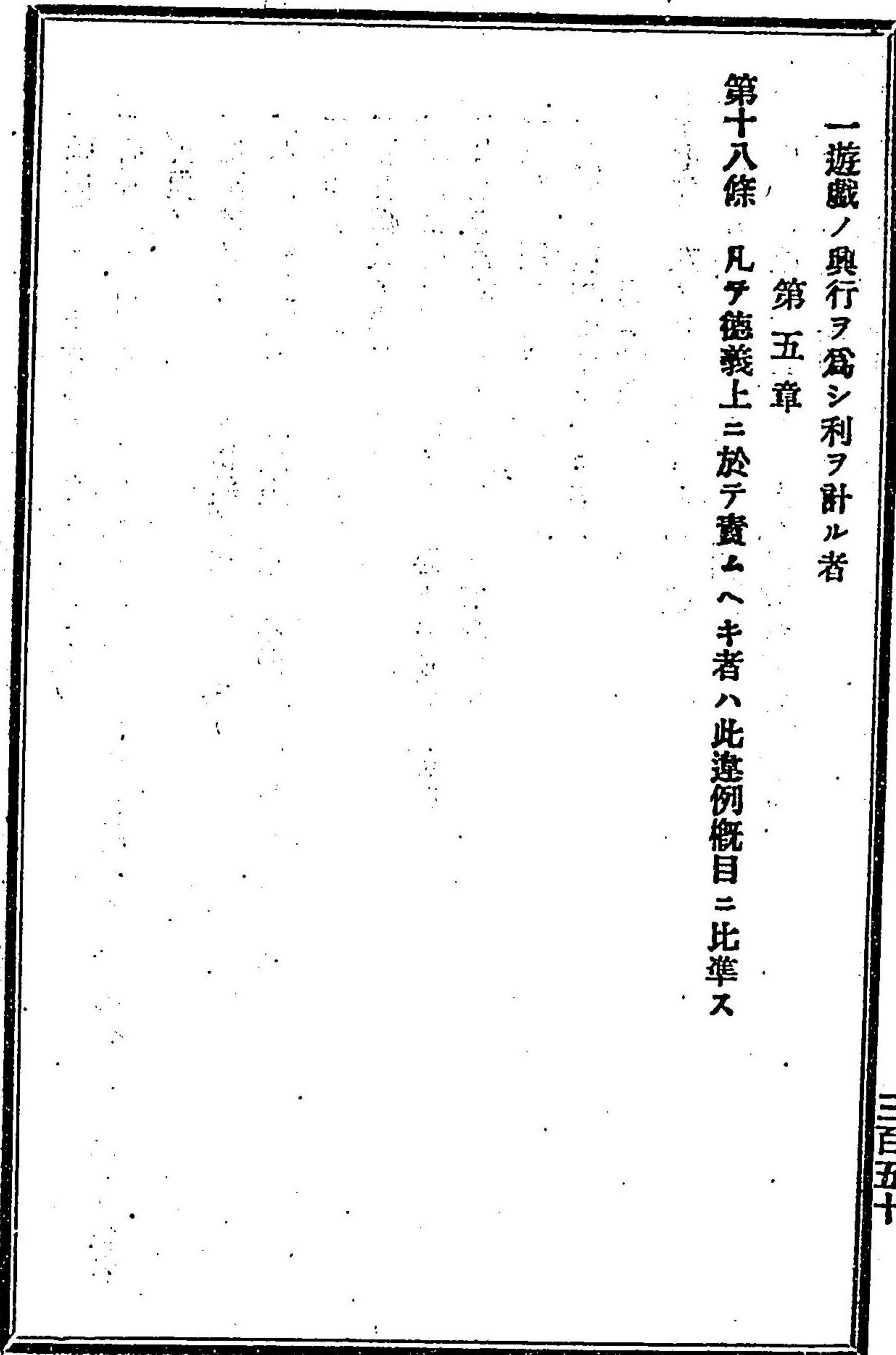
第十七條 左ノ件ニ觸ル、者ハ諭戒ス

- 一 約束ヨリ成立タル臨時教費割ヲ遲納スル者
- 一 他ノ事故ヲ口實トシテ太教廳教會所等ノ義務ヲ欠者
- 一 教會講社ノ規約ニ違フ者

一遊戯ノ興行ヲ爲シ利ヲ計ル者

第五章

第十八條 凡テ徳義上ニ於テ責ムヘキ者ハ此違例概目ニ比準ス



扶桑教教師檢定條規

未教達乙第一號

教師一般

本年五月内務省訓令第九號ニ依リ教師檢定條規則別冊之通相定候條此段示達候事
明治廿八年十二月

扶桑教管長 矢野健丸

教師檢定條規認可願

本年五月御訓令第九號ニ依リ別冊之通教師檢定條規相定度候間御認可被成下度此段
奉願候也

明治廿八年九月廿八日

扶桑教管長 矢野健丸 印

内務大臣子爵野村靖殿

扶桑教教師檢定條規

(指令朱書)

割 印

書面願之趣認可ス

明治廿八年十二月十三日

内務大臣子爵野村靖印

扶桑教教師檢定條規

第一章 總 則

第一條 本教々規第十八條ニ掲グル教師ノ新補昇級ハ總テ此檢定條規ニ依ル

第二條 左項ノ一ニ該當スルモノハ教師タルヲ得ス

一年齡滿二十歲以下ノ者

一 瘋癲白痴ノ者

一 品行不正ナリト認ムル者

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

一 身代限若クハ家資分産ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セザル者

一本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケタル者ニケ年以上改心ノ實ヲ表セザル者

第二章 檢 定

第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス

第一種 試験

第二種 認定

(指令朱書)

割印

書面願之趣認可ス

明治廿八年十二月十三日

内務大臣子爵野村靖印

扶桑教教師檢定條規

第一章 總則

第一條 本教々規第十八條ニ掲グル教師ノ新補昇級ハ總テ此檢定條規ニ依ル

第二條 左項ノ一ニ該當スルモノハ教師タルヲ得ス

- 一 年齡滿二十歲以下ノ者
- 一 瘋癲白痴ノ者
- 一 品行不正ナリト認ムル者
- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 一 身代限若クハ家資分産ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セザル者
- 一 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケタル者ニケ年以上改心ノ實ヲ表セザル者

第二章 檢定

第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス

第一種 試驗

第二種 認定

第四條 第一種ノ檢定ハ學業ノ試験ヲ行フモノトス學業試験分テ左ノ如シ

一 教義學科試験
一 普通學科試験

第五條 教義學科試験科目ハ別表第一號普通學科試験科目ハ別表第二號ニ依ル

第六條 新補試験ハ十三級以下トス

但シ高等官タリシモノ又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ六級以下判任官タリ

第七條 昇級試験ハ越級ヲ許サスト雖モ現級滿二ケ年ヲ經過スル毎ニ二級以內越級

試験ヲ受クルヲ得

但シ十二級九級六級ハ必ス試験ニ依ル

第八條 第二種ノ檢定ハ第九條以下第十四條ノ場合ニ限リ檢定委員長及檢定委員其

實行ヲ檢定シ檢定委員長ニ報告シ檢定委員總長ハ意見ヲ具シテ管長ニ報告ス

第九條 一級二級ノ教師ハ試験ヲ要セス左項ノ定數ヲ限リ欠員アル場合ニ於テ上席

教師又ハ特別功勞アル者ヲ以テ之ヲ補ス

一 壹級 七名

一 貳級 拾五名

第十條 尋常中學校卒業生又ハ其學科程度ト全等以上ノ學校卒業生ハ普通學科試験
ヲ免シ又判任官タリシモノ又判任タルノ資格ヲ有スルモノハ普通學科試験全部又
ハ一部ヲ免ス

第十一條 教義ニ關スル自己ノ著書ヲ以テ檢定ヲ受ル者ハ教義學科試験ノ一部ヲ免
ス

第十二條 左項ノ一ニ該當スルモノハ試験ニ依ラス各一級昇級スルヲ得

但十二級九級六級ハ必ス試験ニ依ル

一 教義ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタル者

一 現級滿三年以上勤務シ其功績顯著ナル大教廳別院教務所ノ權少錄事相當以上ノ
者

一 現級滿四年以上勤務シ其功績顯著ナルモノ

第十三條 本教々師タリシモノニシテ再ヒ本教ニ復職セントスル者ハ原等級ヨリ一

級以下ニ補スルコトアルベシ

第十四條 神道他教派教師タルモノニシテ本教ノ教師タラントスル者ハ教義學科試

験ノ一部又ハ普通學科試験ノ全部又ハ一部ヲ免ス

但シ原等級ヨリ一級以下ニ補スルコトアル可シ

第三章 試驗

- 第十五條 試驗ハ大教廳別院教務所教會所ニ於テ春秋二季ノ定期ニ於テ執行ス
但シ本條ノ定期以外ニ於テ臨時試驗ノ必要アルハ檢定委員總長及檢定委員長
ヨリ申請シテ特ニ管長ノ許可ヲ受クルモノトス
 - 第十六條 試驗ノ總點數ハ百點トシ六十點以上ヲ及第トシ八十五點以上ヲ優等トス
但シ各科通算シテ六十點以上ノ採點アルモノ科四十點未滿ナルハ落第トス
 - 第十七條 試驗ハ檢定委員長及檢定委員其口述講讀行爲ニ關スルモノヲ審査シ其成
點ヲ檢定委員總長ニ報告シ其筆答筆記ニ關スル者ハ之レヲ取纏メ直ニ檢定委員總
長ニ送附スルモノトス
 - 第十八條 前條ノ場合ニ於テ檢定委員總長ハ他ノ檢定委員ト共ニ筆答筆記ヲ審案シ
檢定委員長ヨリ報告シタル成點ト通算シ其成績ヲ管長ニ報告ス
 - 第十九條 試驗問題ハ檢定委員總長檢定委員長之ヲ定ム
 - 第二十條 試驗ハ檢定委員參名以上出席ノ上之ヲ執行スルモノトス
 - 第二十一條 檢定試驗ニ關スル一切ノ書類ハ十ヶ年間之ヲ保存スルモノトス
- 第四章 檢定委員
- 第二十二條 大教廳ニ檢定委員總長一名檢定委員若干名ヲ置キ別院教務所教會所ニ

- 檢定委員若干名ヲ置ク檢定委員長ハ檢定ノ都度又ハ豫メ管長之ヲ命ズ
 - 第二十三條 檢定委員總長ハ二級以上ノ教師檢定委員長ハ六級以上ノ教師檢定委員
ハ八級以上ノ教師ニ就キ管長之ヲ特撰ス
 - 第二十四條 檢定委員總長及檢定委員長ハ管長ノ命ヲ受ケ檢定ニ關スル事務ヲ處理
ス
 - 第二十五條 被檢定人ハ檢定委員長ヨリ下級タル可シ
- 第五章 立會人
- 第二十六條 檢定委員試驗ヲ正確ニ執行スルヤ否ヤヲ監督スル爲メ管長ハ隨時六級
以上ノ教師ヲ立會人ニ定ム
 - 第二十七條 立會人ハ試驗ニ臨監シ試驗ノ實況ヲ直ニ管長ニ報告ス
- 第六章 懲戒
- 第二十八條 檢定委員試驗問題ヲ漏洩シ或ハ密示シタルモノハ其情況ニ依リ委員若
シクハ本職ヲ免ス受験者ニアリテハ十ヶ年間受験權ヲ失フモノトス
 - 第二十九條 檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又立會人虛偽ノ報告ヲナスモノハ前條ニ依
ル
- 別表第一號

學科	等級	講義	作文	作文	說教
扶桑教	三四級	扶桑教	宣命體	宣命體	立教大意
扶桑教	四五級	扶桑教	和命文	和命文	立教大意
扶桑教	七八級	扶桑教	祝文	祝文	立教大意
宇內立國大要別錄	九級	日本紀神代卷	祝文	祝文	立教大意
神德經	十一級	神德經	祝文	祝文	立教大意
烏帽子	十三級	烏帽子	祝文	祝文	立教大意
教祖傳	十五級	教祖傳	祝文	祝文	立教大意

別表第貳號

修身學 口述 國語 讀誦 漢文 讀誦 日本及萬國歷史 筆答 日本及萬國地理 筆答
 理化學 筆答 數學 筆答 習字

未教達乙第二號

今般本教教師檢定條規被相定候ニ付テハ本年六月六日以前在職ノ教師モ右條規ニ準
 シ一應ノ檢定執行可致旨内務大臣ニ届濟相成候條此段副テ相達候事
 明治二十八年十二月 日

扶桑教管長 穴野健丸

視教教師檢定條規

視第二十二號

檢定條規御認可願

本教教師檢定條規別冊之通相定候條御認可被成下度此段奉願候也

明治二十八年十二月十六日

視教管長 坂田安治 印

內務大臣子爵野村靖殿

(指令朱書)

書面願ノ趣認可ス

明治二十八年十二月廿四日

內務大臣子爵野村 靖 印

禊教教師檢定條規

第一章 檢定

- 第一條 禊教教師ノ分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格スル者ニ非レハ之ヲ授與セス
- 第二條 左ノ項目ニ觸ル、者ハ教師タルコトヲ得ス
- 一 品行修ヲサル者
 - 二 癡癩 白痴 瘡啞ノ者
 - 三 男子ハ二十年女子ハ二十五年未滿ノ者
 - 四 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
 - 五 家資分産者破産者及身代限ノ處分ヲ受タル者又復權后若クハ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セサル者
 - 六 本教又ハ他教派ニ於テ懲戒等ニ依リ免職ノ處分ヲ受ケ滿二ケ年ヲ經過シ悔悟ノ實證アラサル者
- 第三條 教師ノ檢定ヲ分テ左ノ二種トス
- 甲種 試驗
 - 乙種 認定

第二章 試驗

- 第四條 甲種檢定ハ學業ノ試驗ヲ行フモノトシ是ヲ分テ左ノ二種トス
- 一 教義學科
 - 二 普通學科
- 第五條 教義學科試驗科目左ノ如シ

一種	二種	三種	四種	五種	六種	七種
禊教要旨筆記 口述	禊教要旨筆記 口述	禊教要旨筆記 口述	禊教要旨筆記 口述	禊教要旨筆記 口述	禊教要旨筆記 口述	禊教要旨筆記 口述
六國史筆記 口述	日本紀筆記 口述	古事記筆記 口述	古事記筆記 口述	古事記上卷筆記 口述	古語拾遺筆記 口述	神皇略述類筆記 口述
萬葉集筆記 口述	法曹至要抄筆記 口述	經紀宣命筆記 口述	祝詞式筆記 口述	土佐日記筆記 口述	每朝神拜式筆記 口述	○
延喜式筆記 口述	令義解筆記 口述	職原抄筆記 口述	禁秘抄筆記 口述	文祝詞 口述	文祝詞 口述	文祝詞 口述
作文命体 口述	作文命体 口述	作文命体 口述	神事庭婚式 口述	神事庭婚式 口述	神事庭婚式 口述	葬儀式 口述

第六條 普通學科試驗科目左ノ如シ

但此科目ヲ及第セシ者ハ再度ノ試験ヲ要セス

- 一修 身口
- 一日本歴史筆記
- 一萬國地理筆記
- 一算術筆記
- 一人身生理述口
- 一萬國歴史筆記
- 一漢文講讀
- 一日本地理筆記

第七條 試験ノ種目ヲ分テ七種トシ二種以上ヲ高等トシ三種以下ヲ尋常トス

第八條 高等試験ハ毎年二期四月四月禊教本院ニ於テ執行シ尋常試験ハ毎年四期八月八月十一月十一月禊教分支部ニ於テ執行スル者トス

但シ時宜ニ依リ臨時執行スルコトアルヘシ

第九條 地方ニ於テ高等試験ヲ請フ者アル時ハ管長ハ高等檢定委員ヲ受験者所轄ノ分支部ヘ派出セシメ試験ヲ執行スルコトアルヘシ

但試験時期ハ前條ノ例ニ依ル

第十條 試験方法ハ高等尋常トモ通シテ左ノ如クス

一 項 問題ノ筆記ハ一書ニ付一節口述ハ一書ニ付三節トス

二 項 筆記ハ一節二時間作文ハ一題三時間トス

第十一條 試験ノ點法左ノ如シ

一 項 各科百點ヲ以テ滿點トス

二 項 各科得點ヲ合算シ平均六十點以上ヲ及第トス

三 項 平均六十點ヲ得ルモ一科若シ四十點ニ達セサレハ落第トス

四 項 平均八十點以上ヲ甲點トシ以下ヲ乙點トス

第十二條 第十一條第四項ノ得點ニ依リ職級ヲ定ムル左ノ如シ

但七種ノ試験ハ此限ニアラス

種目	一	二	三	四	五	六	七
甲點	三級	五級	七級	九級	十一級	十三級	
乙點	四級	六級	八級	十級	十二級	十四級	教導職試補

第十三條 試験ニ落第セシ者高等ハ滿一ケ年尋常ハ滿六ケ月ヲ經過セサレハ再試験ヲ請フヲ許サス

第十四條 新補試験ハ十三級以下トス尤高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有

スル者ハ直ニ六級以下判任官タリシ者又ハ判任官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ十

級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テハ六級ノ教師ニ限り檢定委員

ハ豫メ管長ノ許可ヲ得テ試験ヲ執行スルコトヲ要ス

但認定ハ第三章第十八條ノ規定ニ據ル

第十五條 昇級試験ハ現職滿二ケ年以上ノ者ニ非レハ之ヲ許サス
第十六條 昇級試験ハ越級ヲ許サス

但特別ノ事情アル者ニ限り管長ハ檢定長檢定委員長及檢定委員ノ詮衡ヲ經テ特ニ越級試験ヲ受クルコトヲ許可スルコトアルヘシ此場合ト雖モ十二級十級及六級ヲ超越スルコトヲ許サス

第三章 認定

第十七條 正權大教正ハ試験ヲ要セス管長之ヲ特命ス

但大教正五名權大教正十名ヲ超過スルコトヲ許サス

第十八條 認定ハ左項ノ一ニ該當スル者ニ限り教養學科普通學科ノ内試験ノ一部ヲ免除シ甲部ハ七級ニ乙部ハ八級以下ニ丙部ハ十三級以下ノ教師ニ補命スルコトヲ得但認定時期ハ第二章第八條ノ例ニ依ル

甲部

一 項 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニアリシ者

二 項 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正タル者

乙部

一 項 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者
以上普通學科試験ヲ免除ス

丙部

一 項 神宮宮掌以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者

二 項 神宮皇學館專科卒業者及皇典講究所五等司業以上ノ者

三 項 滿十年以上府縣社以下ノ神職ニ在リシ者

四 項 教養ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル成績アル者

五 項 十年以上禰教ノ教徒ニシテ布教ニ熱心シ顯著ナル巧績アル者

以上教養學科試験ヲ免除ス

六 項 尋常師範學校尋常中學校以上公立學ヲ卒業セシ者

七 項 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者

以上普通學科試験ヲ免除ス

第十九條 禰教教師タリシ者ニシテ復職ヲ請ヒ及又明治十七年八月十一日以前教導職タリシ者及他教派ノ教師タリシ者ニシテ更ニ本教教師ヲ志願スル者ハ試験一部

又ハ全部ヲ免除シ原職級ニ相當スル等級以下ニ補命スルコトヲ得

第二十條 試補以上ノ教師ニ就職シ左表ノ年限ヲ經過シ教養上巧勞アル者ハ其成績

ヲ認定シ一級ヲ進ムルコトヲ得猶分支部組教會ノ理事者ニシテ巧績尤著ナル者ハ認定ノ上一年ヲ短縮スルコトアルヘシ
但七級ヨリ六級二十級ヨリ九級二十三級ヨリ十二級ニ昇級スル場合ハ必ス試験ヲ要ス

年限	年滿四	年滿四	年滿四	年滿四	年滿四	年滿三	年滿三	年滿三	年滿三	年滿三	年滿三	年滿三
職給	教權中	正少教	教權正	義大講	講權大	義中講	講權中	義少講	義少講	訓導	導權訓	試教導

第四章 檢定長及檢定委員

- 第二十一條 檢定ヲ行フ爲メ檢定長及檢定委員長檢定委員ヲ置ク
- 第二十二條 左ノ資格アル者ヲ以テ檢定長及高等檢定委員トス
- 一 項 博士學士ノ稱號アリテ現職六級以上ノ者
 - 二 項 本教顧問ノ任ニアル者
 - 三 項 本教教師就職十ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者
 - 四 項 明治十七年八月十一日以前六級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者
 - 五 項 高等學校高等師範學校以上ノ公立學校教授タリシ者ニシテ現職六級以上ノ者

者

第二十三條 左ノ資格アル者ヲ以テ尋常檢定委員トス

- 一 項 本教教師就職五ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者
- 二 項 明治十七年八月十一日以前八級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者
- 第二十四條 檢定長ハ正副二名トシ高等檢定委員資格者中ヨリ管長之ヲ特命ス
- 第二十五條 檢定委員長及檢定委員ハ高等尋常共ニ第二十二條第二十三條各項ノ資格者中ヨリ管長之ヲ特命ス

但シ定員ナシ

第二十六條 試験臨場檢定委員ハ高等尋常共ニ委員長一名委員三名トス

但シ委員長欠席ノ節ハ委員首座ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十七條 高等檢定委員長及尋常檢定委員長ハ檢定委員ト共ニ受験者ノ筆記以外ニ關スル者ヲ審査シ其成點ヲ檢定長ニ報告シ其筆記ニ關スル者ハ其儘檢定長ニ廻付スルモノトス

但シ算術ハ事宜ニ依リ檢定委員長ヲシテ審査セシムルコトヲ得

第二十八條 檢定長ハ高等及尋常檢定委員長ヨリ廻付シタル筆記書類ヲ審査シ其成點ヲ高等及尋常檢定委員長ヨリ報告シタル成點ト合算シ其成績ヲ管長ニ具申ス

第二十九條 檢定長及高等檢定委員ハ高等ノ認定ヲ爲シ檢定長及尋常檢定委員ハ尋常ノ認定ヲ爲スモノトス

第三十條 檢定委員ハ檢定ニ關スル諸般ノコトヲ執行ス

第三十一條 檢定長及檢定委員長檢定委員ノ任期ハ高等尋常共ニ四ケ年トス但シ再任スルコトヲ得

第五章 試驗立會人

第三十二條 試驗立會人ハ高等尋常共ニ各一名トス

第三十三條 試驗立會人ハ試驗場ニ臨ミ試驗終了セハ其正否ヲ管長ニ申告ス

第三十四條 高等試驗立會人ハ現職六級以上ノ者尋常試驗立會人ハ現職八級以上ノ者トス

第三十五條 高等尋常共ニ試驗立會人ハ前條ノ資格者ニ就キ其都度管長之ヲ特命ス

第六章 懲戒

第三十六條 檢定委員ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩シ又ハ試験場外ニ於テ試験ニ關スル事務ヲ取扱或ハ試験點查ヲ口外シタル者ハ輕キハ委員ノ資格ヲ剝奪シ重キハ教規ニ照シ免職若クハ降級ス

第三十七條 試驗立會人ニシテ虚偽ノ申告ヲ爲シタル時ハ前條ノ例ニ依ル

第三十八條 第三十六條ノ場合ニ於テハ試験ヲ無効トシ其受験者ハ猶十ケ年間試験ヲ請フコトヲ許サス

第七章 附則

第三十九條 試験認定ニ關スル書類ハ總テ禮教本院ニ保存ス

第四十條 教規ニ依リ既ニ教師分限及等級ヲ授與シタル者ト雖モ自今昇級ノ場合ニ於テハ本條規ニ依ル

第四十一條 檢定ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

神道禊派教規

教規御認可願

當禊派教規別冊之通相定施行仕度奉存候ニ付御認可被成下度此段奉願候也

神道禊派教長

明治廿七年八月十五日

中教正坂田安治 印

内務大臣伯爵井上馨殿

追テ本願書ハ明治廿六年六月廿六日當派獨立願書ニ添付セラレ度奉退願候也
(指令朱書)

書面願之趣認可ス

明治廿七年十月十九日

内務大臣子爵野村 靖 印

神道禊派教規

第一章 教旨

第一條 本教ハ禊祓ノ神教ヲ擴張スルヲ以テ本旨トス抑モ禊祓ハ伊邪那岐神須佐之男神二神ノ神事ニ起因シ中世以降神祇伯白川家ノ秘法ニシテ天保年間ニ至リ吾教祖井上正鏡ニ相傳シ坂田正安同鏡安教統ヲ傳繼シ教旨ヲ保全スル所ナリ

第二章 主神

第二條 天之御中主神高皇產靈神神皇產靈神天照大御神以上ノ四神ヲ造化ノ神皇大神ト稱シ奉ル伊邪那岐神須佐之男神以上ノ二神ヲ禊祓ノ神ト稱シ奉ル大國主神幽冥主宰ノ神ト稱シ奉ル祓所神瀬織津姫神速秋津姫神伊吹戸主神速佐産土神土地人民ノ吉凶禍福ヲ司リ玉フ神也及井上正鏡ノ神靈ヲ奉祭ス

第三章 祭式

第三條 本院ノ神殿祭式及教祖神靈祭ノ祭式ヲ正略二儀トス
但大祭ハ正儀ヲ行ヒ小祭ハ略儀ニ依ル

正儀

先齋主以下祭官一同神前ニ列座一揖
沓鹽湯行事神前ヲ始メ席上四方ヲ清ム

次大麻ヲ据ウ神前ノ中央ニ置ク神杖ニ四垂ヲ付ク
次祓詞教主心中ニ祓所四柱大神ヲ祈リ奉リテ祓詞ヲ奏ス二拜短手
次大麻行事神前及儀物ヲ拂ヒ清メ祭官又參集人ヲ拂ヒ清ム
次開扉齋主二拜短手
此間奏樂
次神饌ヲ供フ祭官 俵供
此間奏樂
次祝詞齋主 奏上四拜八平手
次拜禮有位帶敷叙時者及教師 職員信徒參集人順次二拜短手
次撤饌祭官 奉仕
此間奏樂
次閉扉齋主 奉仕二拜短手
次退手
次退出
零 儀
先齋主以下神前ニ列座